

第2章 本市の現況と都市構造上の課題

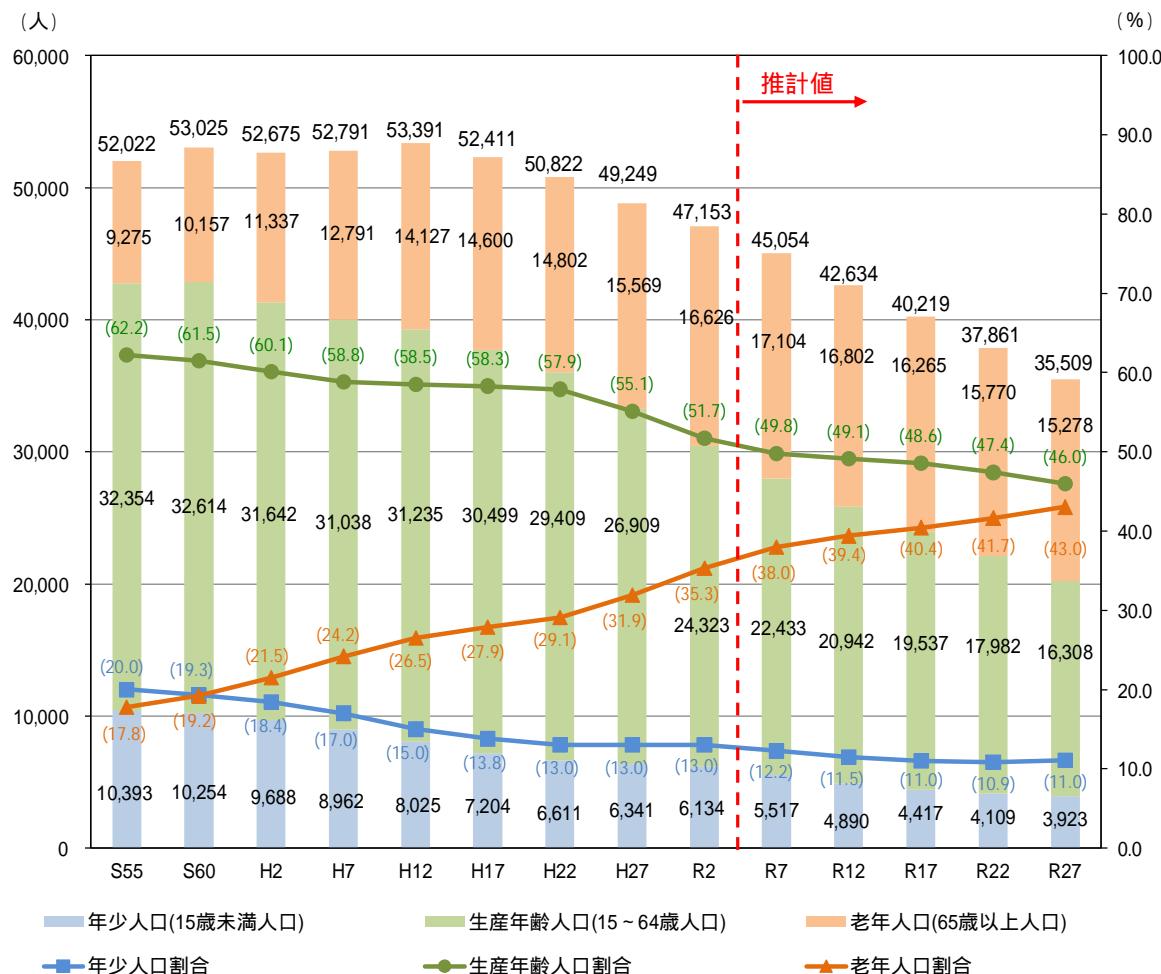
2-1 本市の現況

2-1-1 人口動向

(1) 年齢3区分人口

本市の総人口(国勢調査)は令和2(2020)年が47,153人で、平成12(2000)年をピークに減少傾向にあります。国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)の令和5(2023)年推計によると、令和27(2045)年で約3.5万人と推計されています。

年齢3区分人口は、老人人口(65歳以上)が増加傾向、年少人口(15歳未満)及び生産年齢人口(15歳~64歳)は減少傾向にありますが、老人人口も令和12(2030)年で減少に転じることが予測されています。



(2) 地域別人口

住民基本台帳によると、平成 27(2015)年から令和 6(2024)年にかけて、伊集院を除く 3 地域で人口が減少しています。伊集院地域については、ほぼ横ばいで推移しています。

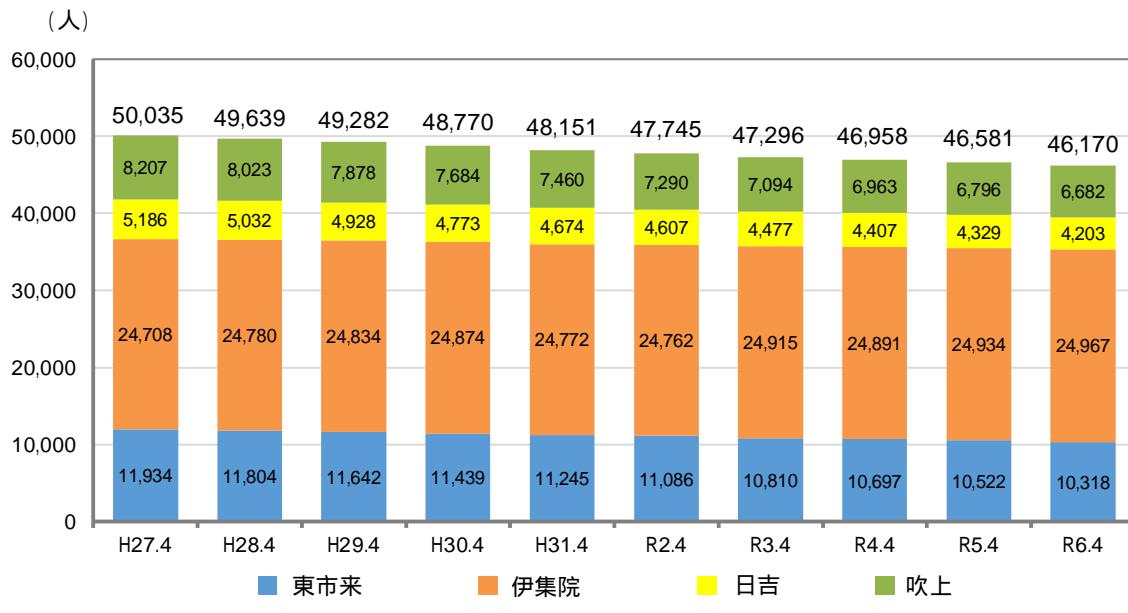


図 地域別人口の推移

出典:住民基本台帳

(3) 都市計画区域内人口

東市来・吹上都市計画区域内人口は、平成 27(2015)年から令和 6(2024)年にかけて減少傾向にあります。伊集院都市計画区域内人口については、ほぼ横ばいで推移しています。

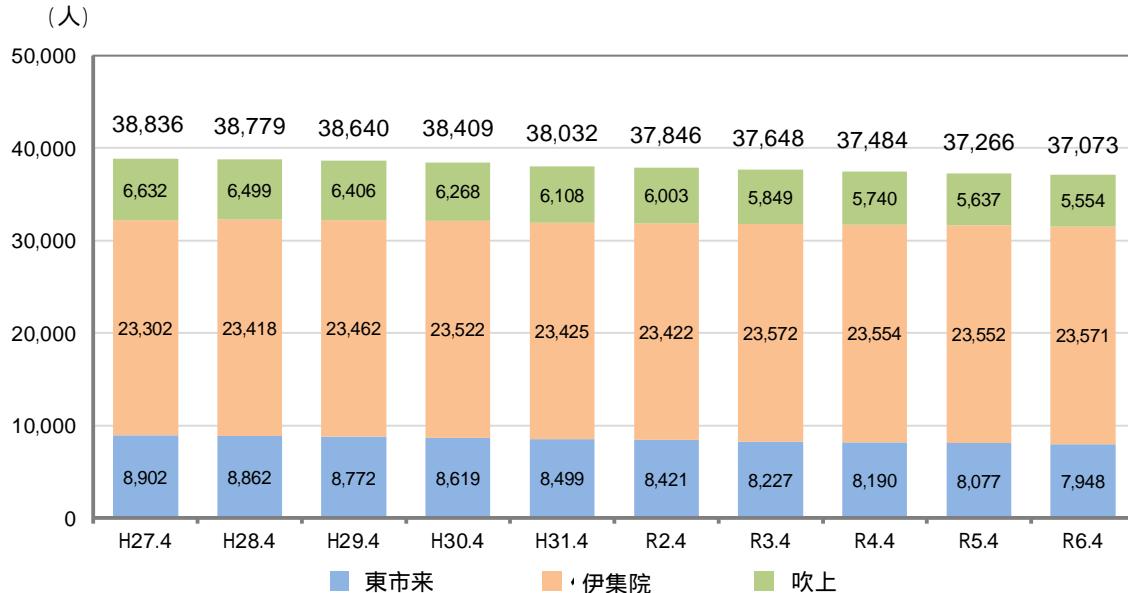


図 都市計画区域内人口の推移

出典:住民基本台帳

(4) 人口密度

令和2(2020)年の人口密度(国勢調査基本区単位)をみると、伊集院駅周辺が最も高くなっています。本市の中心市街地が形成されていることが分かります。また、DID 地区に指定されている妙円寺団地や、東市来地域では湯之元駅、東市来駅周辺の人口密度も比較的高くなっています。

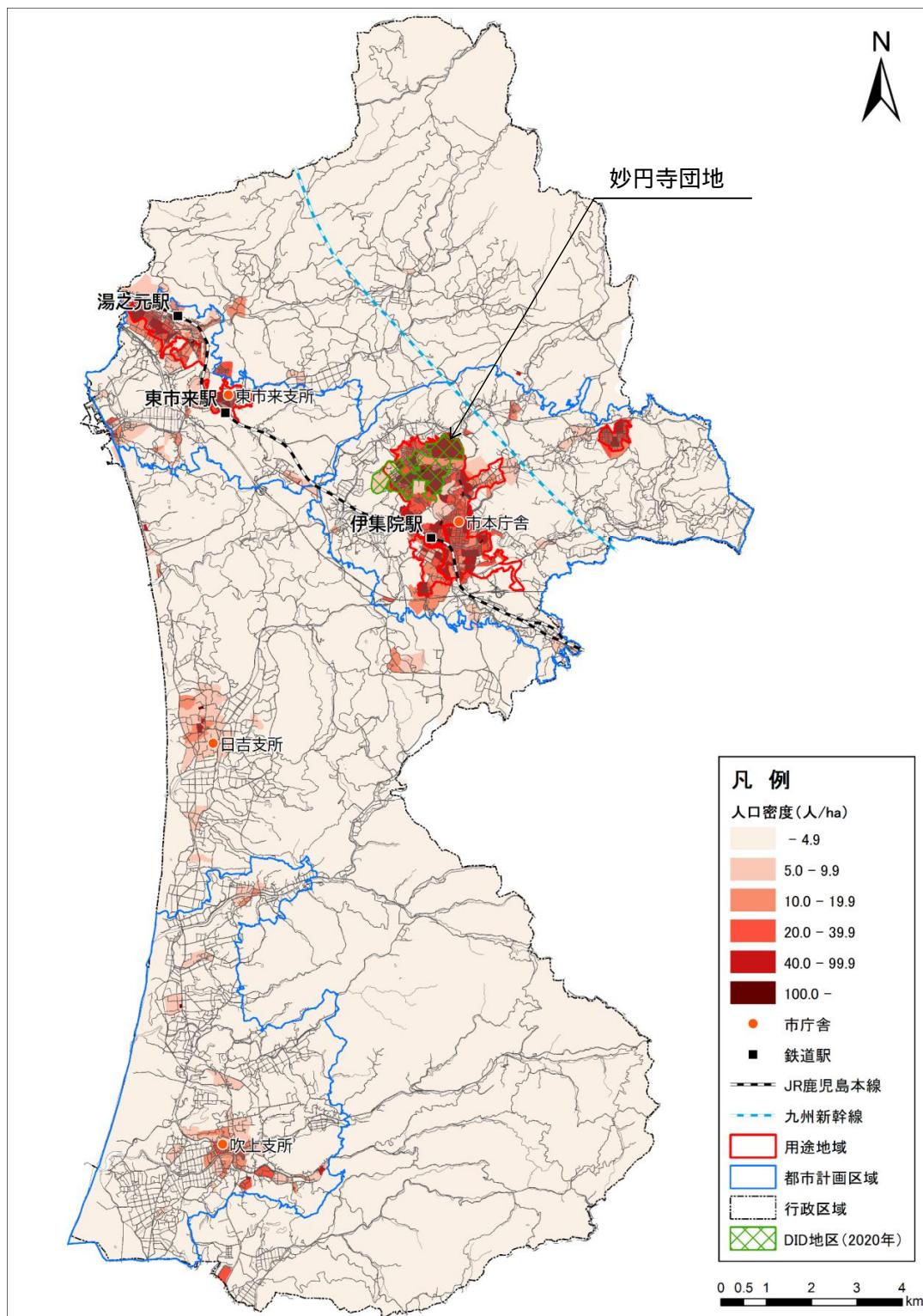


図 基本区単位別人口密度

出典:国勢調査

DID 地区(人口集中地区)とは、市区町村内で人口密度が $4,000$ 人/ km^2 (40 人/ha) 以上の基本単位区がお互いに隣接して人口が 5,000 人以上となる地区のこと。

2 - 1 - 2 公共交通

(1) 公共交通網

市内の鉄道はJR鹿児島本線が通り、湯之元、東市来、伊集院の3つの駅が設置されています。また、九州新幹線が市内を通過しています。

バスは、鹿児島交通が運行しており、伊集院駅周辺や吹上支所周辺では30本/日以上運行していますが、伊集院駅の北側にある妙円寺団地を通る路線は本数が少なく、20本/日未満です。

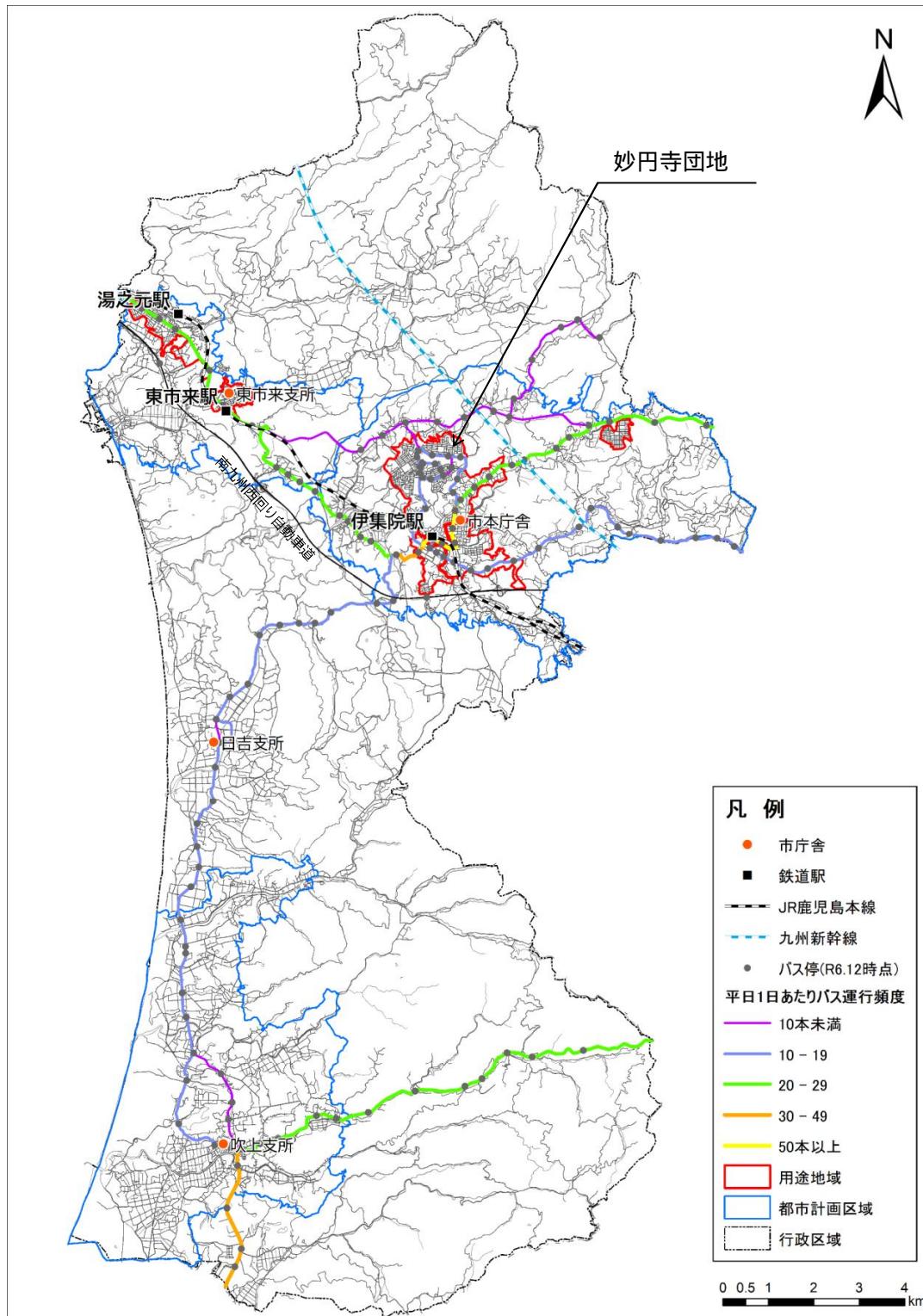


図 公共交通網図

出典:各事業者資料(R6.12時点)

また、乗合タクシー制度は、令和6年(2024)度に制度を見直して乗合送迎サービス「ひお吉号」として運行しています。令和7(2025)年12月からは、市内を月曜日から土曜日は7つのエリア、日曜日は4つのエリアに分けて、運行エリア内にある停留所と停留所の間を移動することができます。

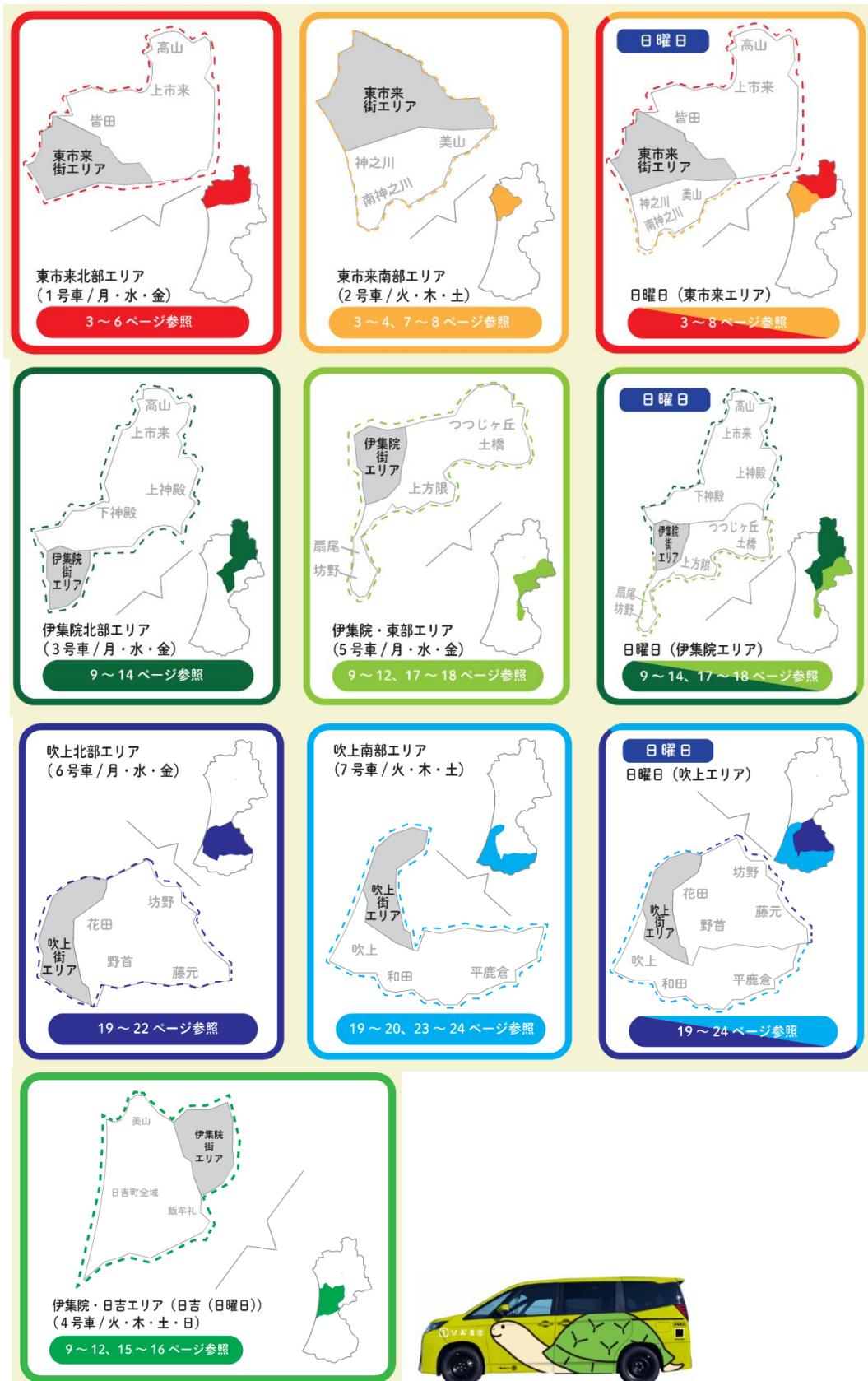


図 ひお吉号運行エリア、運行車両(令和7年12月時点)

出典:市ホームページ

(2) 公共交通徒歩圏人口

公共交通徒歩圏に居住する市民の割合は、令和2(2020)年で50.0%です。

鉄道駅からは、一般的な徒歩圏である半径800m、バス停からは、誘致距離を考慮し半径300mで設定しています。（出典：国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」）

表 公共交通徒歩圏人口

	2020年
公共交通徒歩圏人口	23,561
公共交通徒歩圏人口/全市人口	50.0%

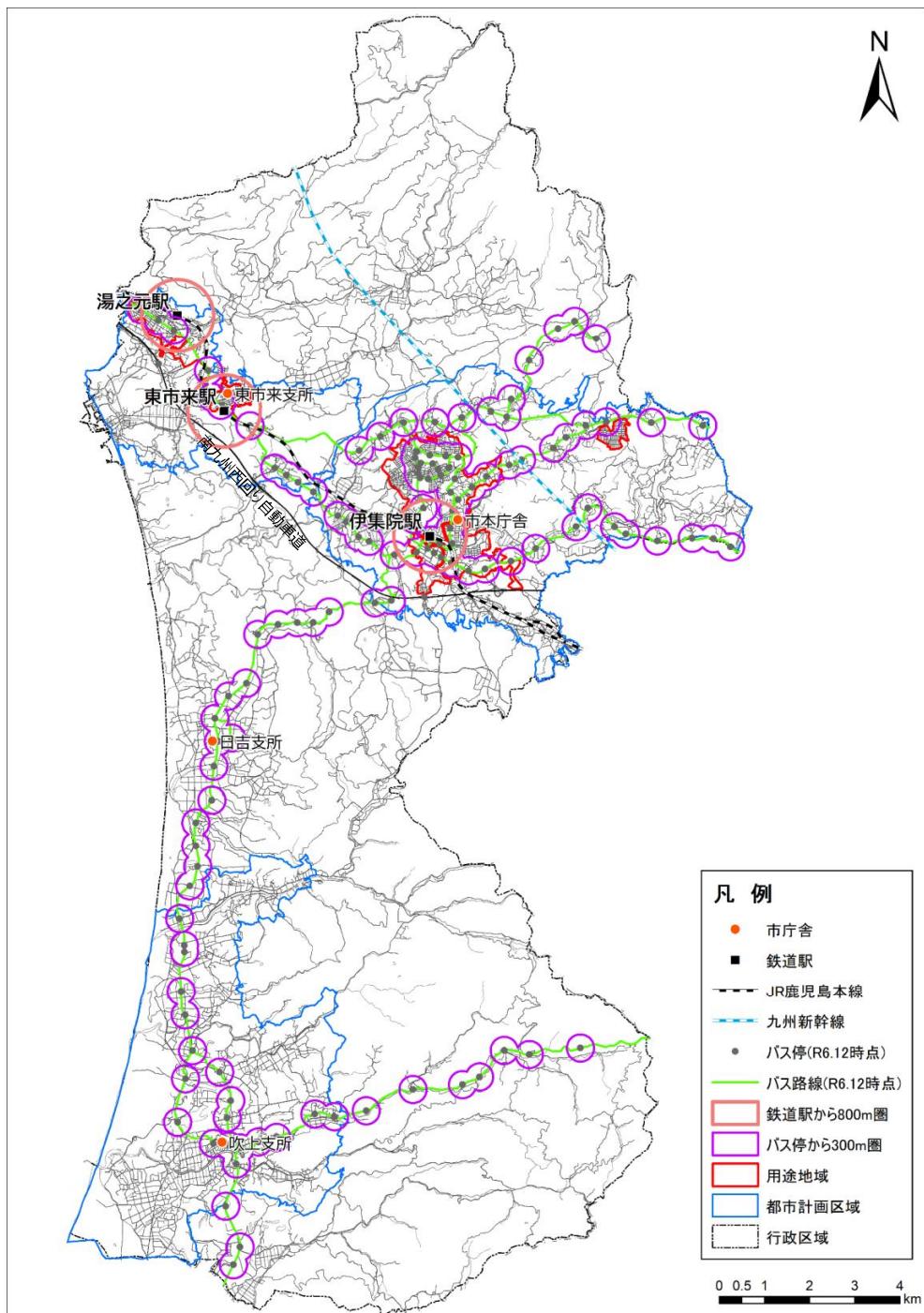


図 公共交通徒歩圏図

出典：[人口]国勢調査、[公共交通]各事業者資料(R6.12時点)

2-1-3 災害ハザードマップ

(1) 土砂災害

市内の山間部を中心に、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域、地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域が指定されています。

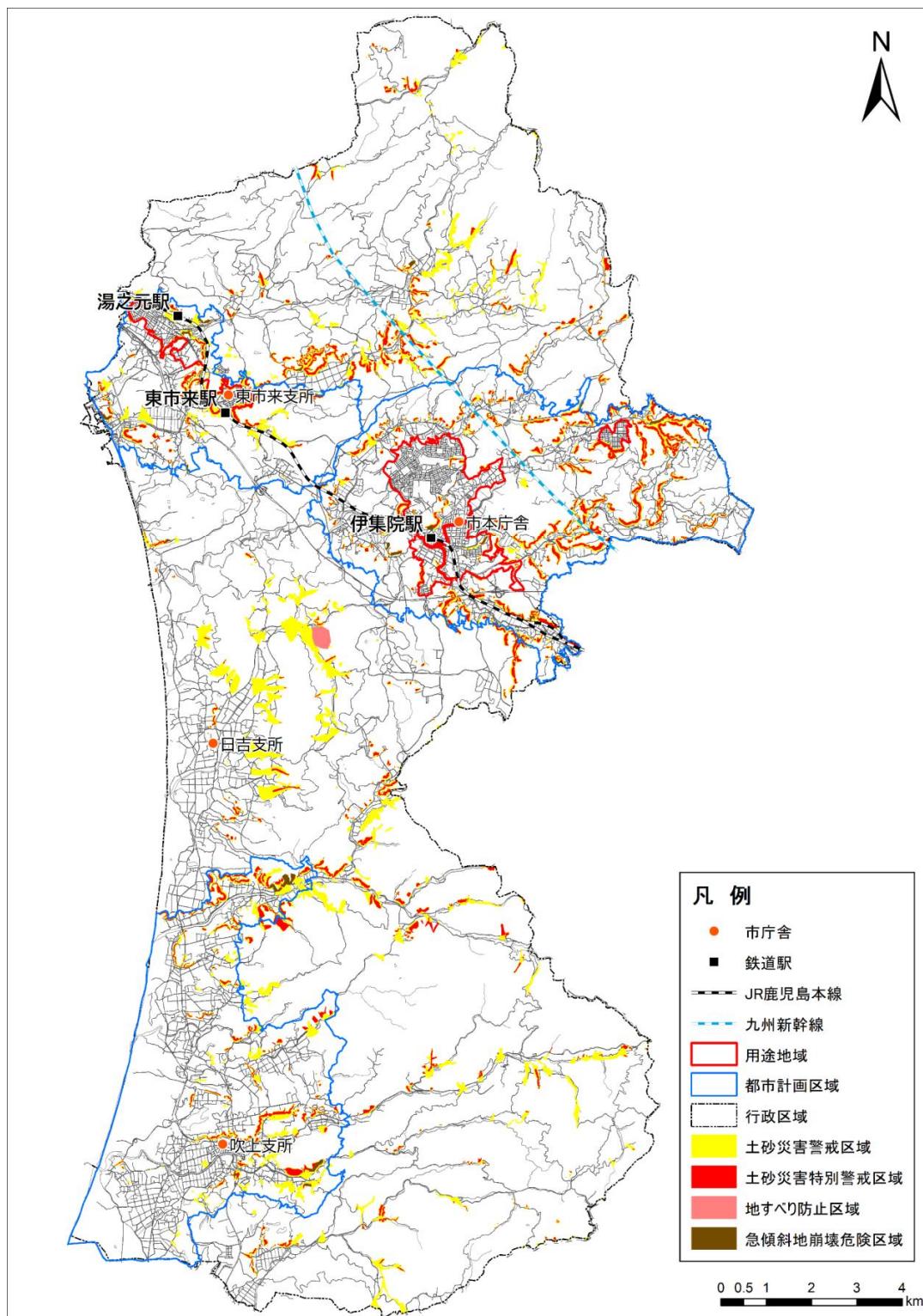


図 土砂災害ハザードマップ

出典: 国土数値情報

(2) 大規模盛土造成地

大規模盛土造成地は、伊集院地域の妙円寺団地やつつじヶ丘団地周辺及び東市来地域、吹上地域の一部に存在しています。大規模盛土造成地は、全て谷埋め型となります。

大規模盛土造成地とは、谷や沢を埋め立てたり、傾斜地に盛土をして宅地造成された場所のうち、地震時に滑りやすいなど特に注意が必要な場所のことです。谷埋め型は、盛土内に水の侵入を受けやすく、形状的に盛土側面に谷部の斜面が存在することが多いという特徴があります。

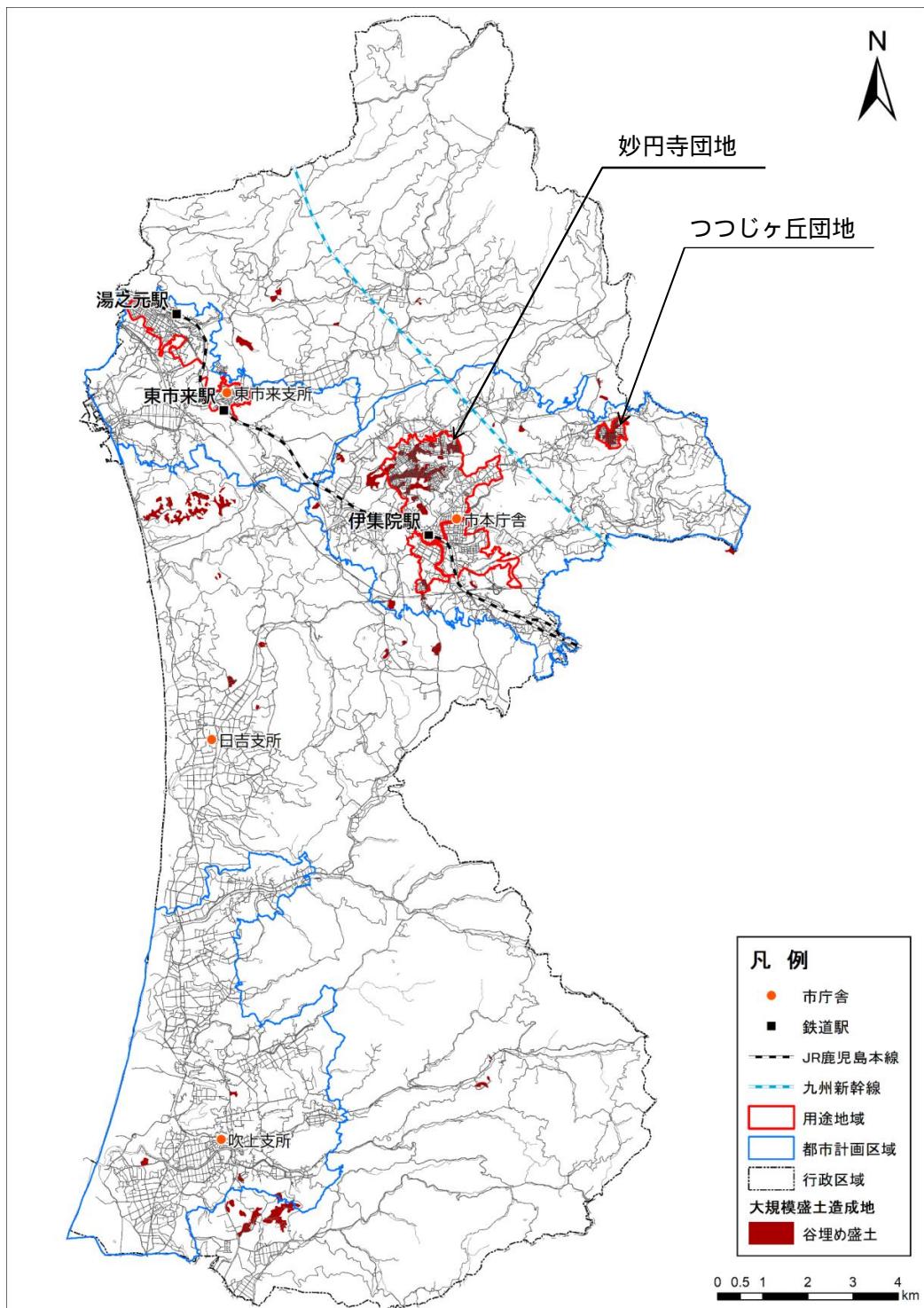


図 大規模盛土造成地図

出典:市資料

(3) 浸水想定区域(計画規模降雨)

浸水想定区域(計画規模降雨)は、伊集院地域を流れる神之川に指定されています。想定浸水深は、概ね0.5m以上3.0m未満となっており、JR伊集院駅南側市街地においても0.5m以上3.0m未満の浸水深となる区域がみられます。

計画規模降雨とは、河川の氾濫を防ぐために、河川整備の目標を定めた計画の基準として想定された降雨量のことです。比較的発生頻度の高い降雨量を想定しています。

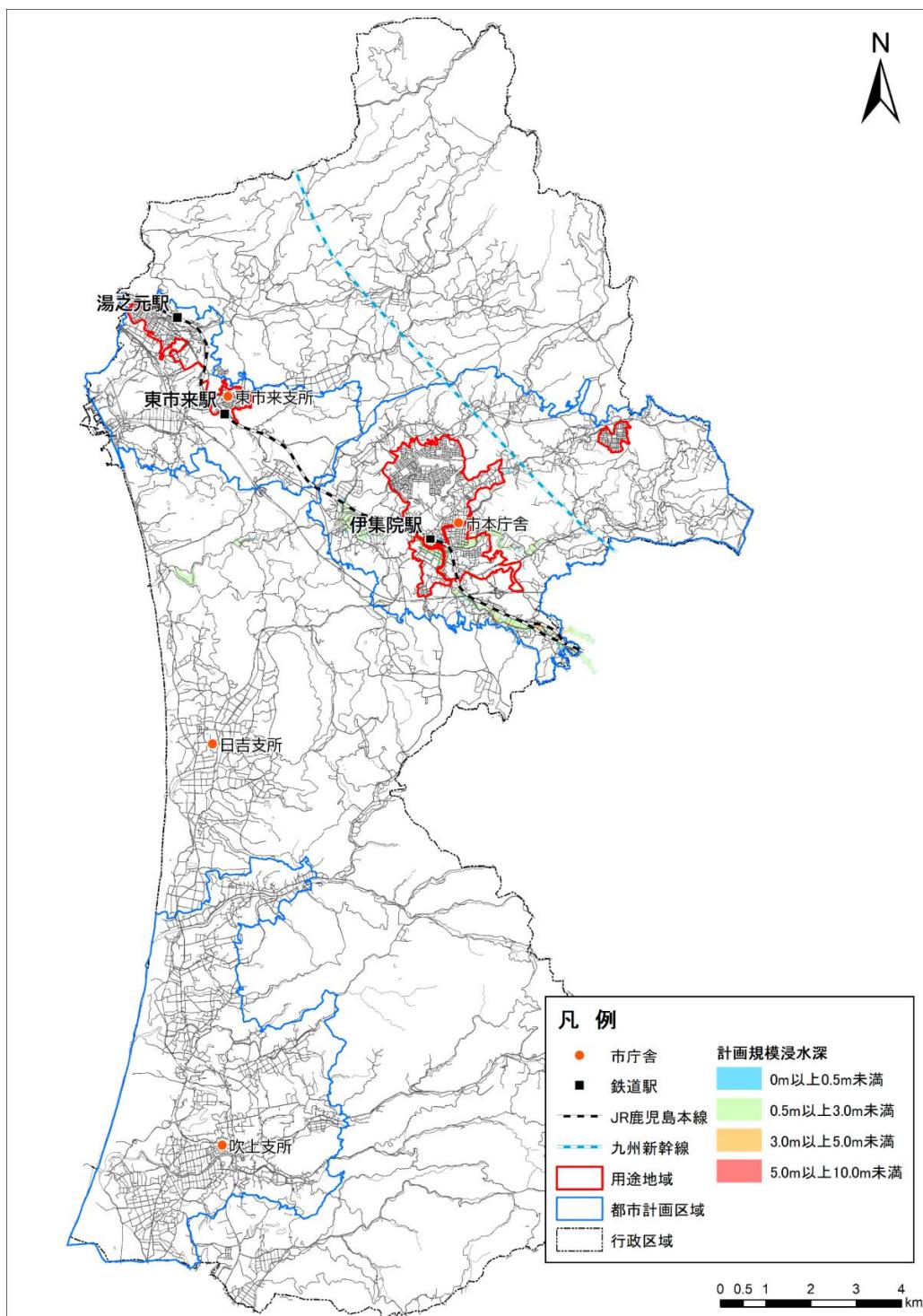


図 浸水想定区域図(計画規模浸水深)

出典:鹿児島県(H29.3)

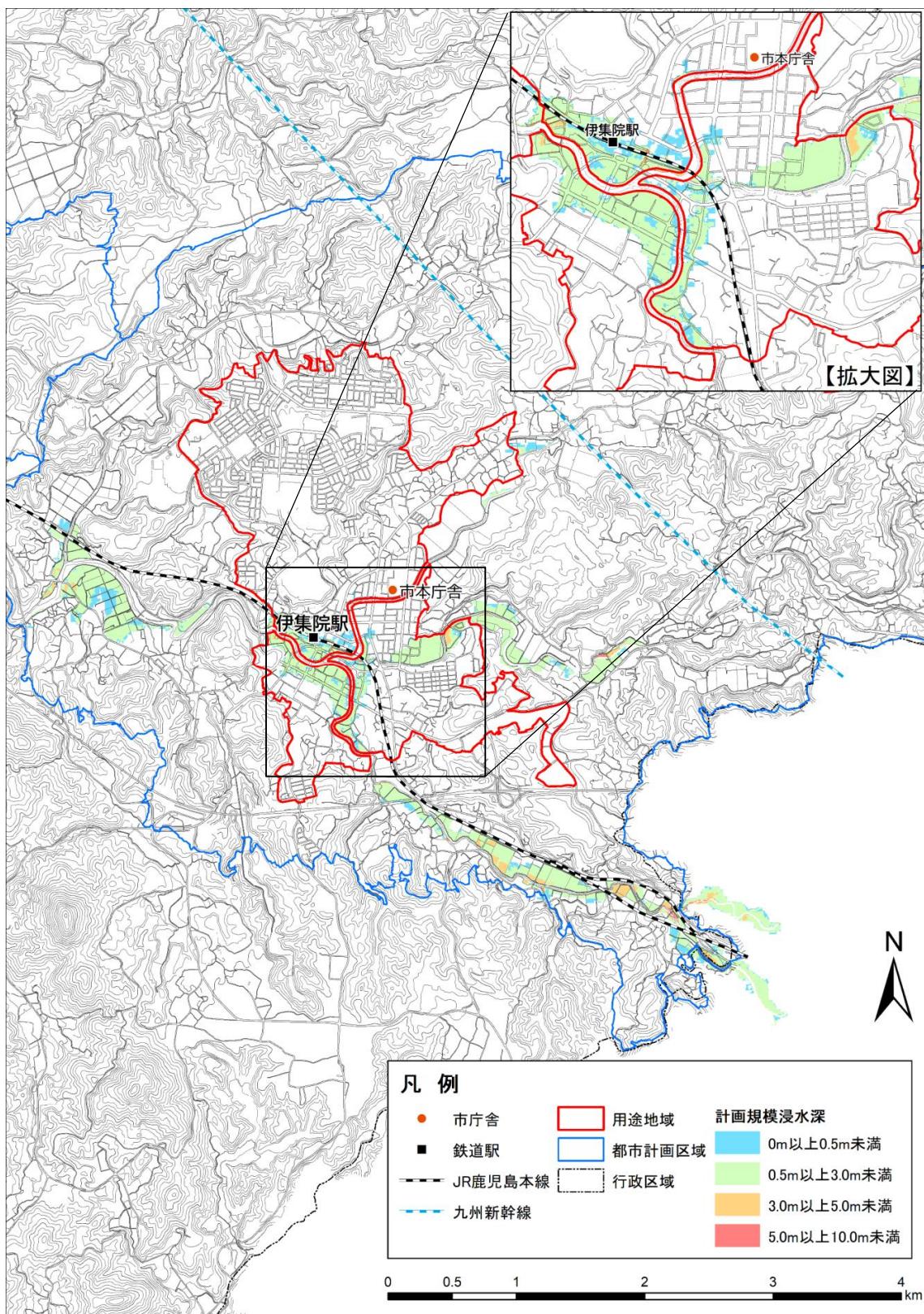


図 浸水想定区域図(計画規模浸水深)【伊集院地域拡大】

出典:鹿児島県(H29.3)

(4) 浸水想定区域(想定最大規模降雨)

浸水想定区域(想定最大規模降雨)は、神之川及び大里川で指定されています。

伊集院地域を流れる神之川は、市街地において広い範囲で浸水が想定されており、浸水深が5.0m以上となる区域もみられます。東市来地域に流れる大里川は、湯之元駅南部において、浸水深が0.5m以上となる区域が広い範囲で指定されています。次頁以降に地域別の拡大図面を示します。

想定最大規模降雨は、過去に地域で実際に降った降雨量から想定される最大規模の降雨量のことです。概ね1000年に一度発生するレベルの降雨量を想定しています。

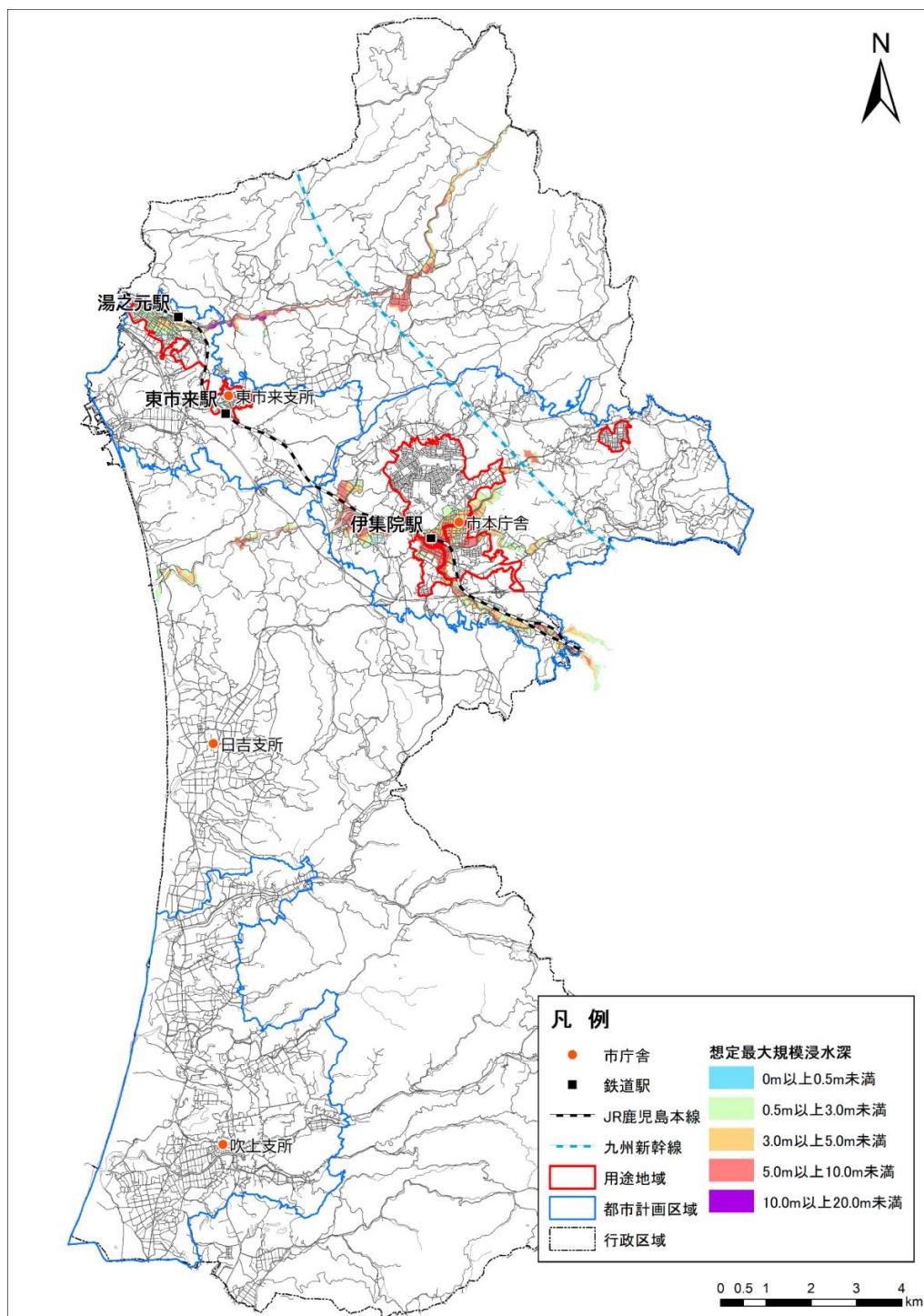


図 浸水想定区域図(想定最大規模浸水深)

出典:鹿児島県(神之川:H29.3、大里川:R6.5)

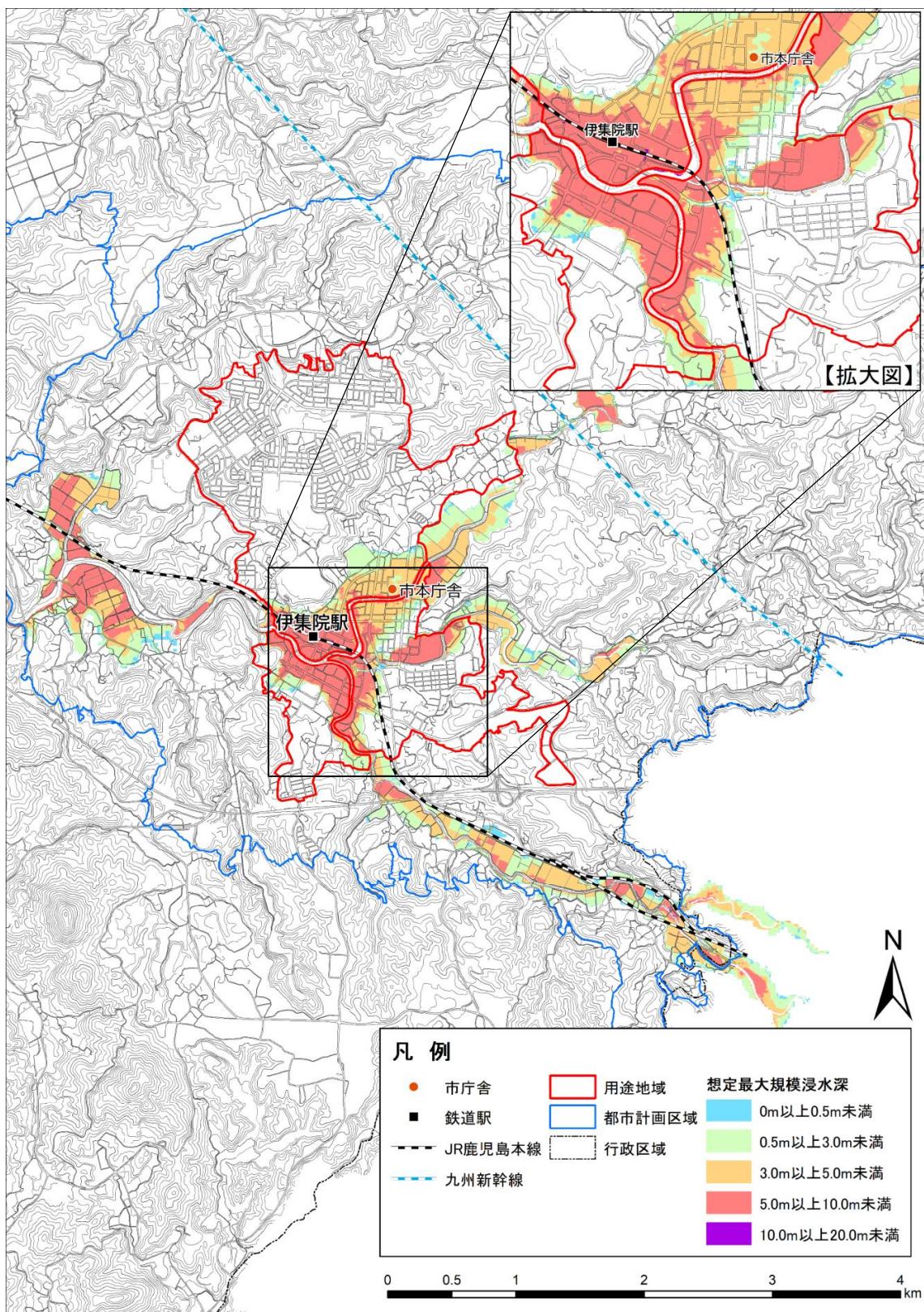


図 浸水想定区域図(想定最大規模浸水深)【伊集院地域拡大】

出典:鹿児島県(H29.3)

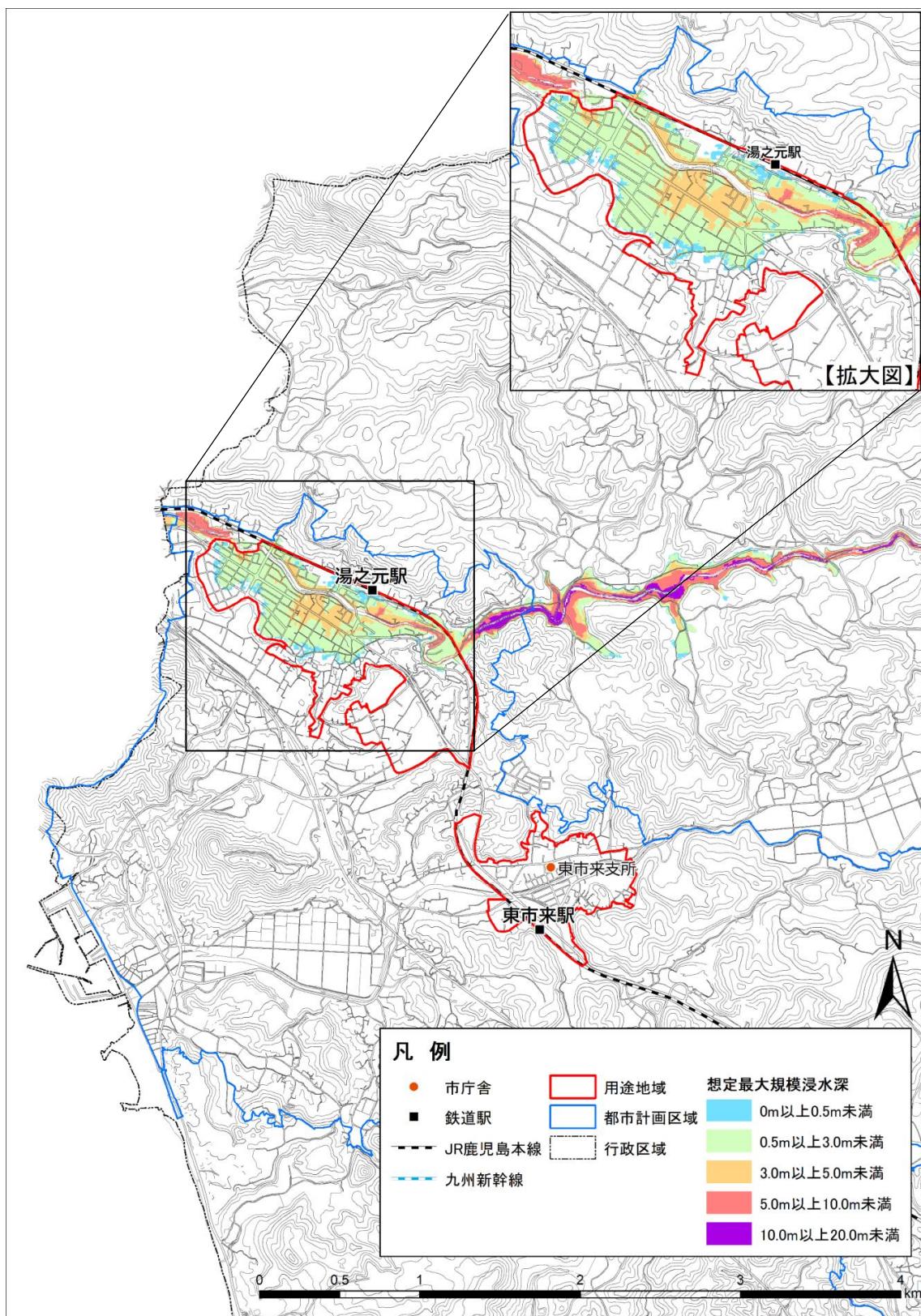


図 浸水想定区域図(想定最大規模浸水深)【東市来地域拡大】

出典:鹿児島県(R6.5)

(5) 浸水継続時間

浸水継続時間(想定最大規模降雨)は、12時間未満の区域が大半ですが、伊集院市街地の一部では、浸水継続時間が1日～3日未満の区域もみられます。

浸水継続時間は、洪水で河川が氾濫した場合に、屋外への避難が困難となり孤立する可能性のある浸水深0.5mを超えてから、再び0.5mを下回るまでの時間を示す情報です。

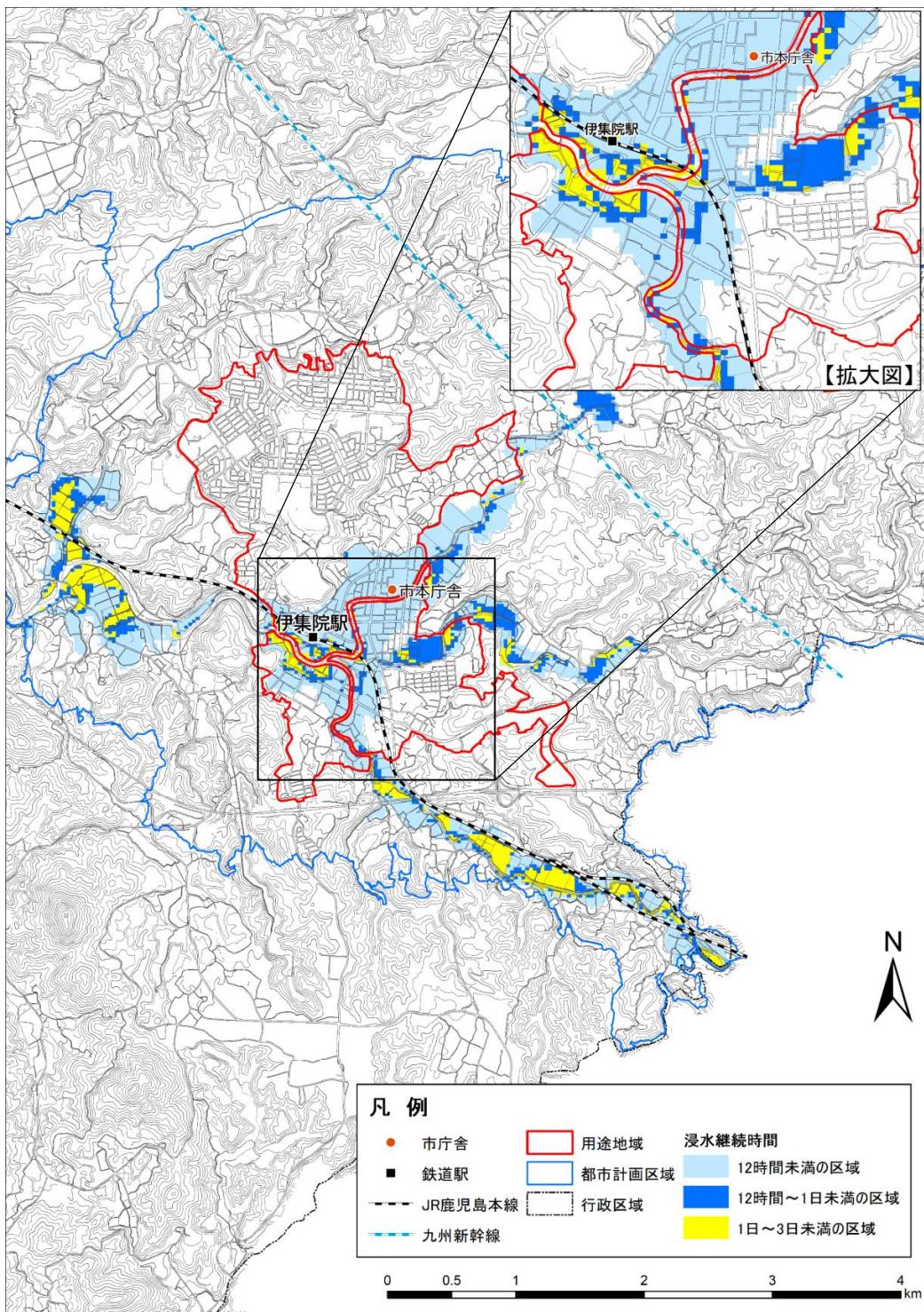


図 浸水想定区域図(浸水継続時間)【伊集院地域拡大】

出典:鹿児島県(H29.3)

(6) 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)

家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)は、河川沿いに点在しており、JR 伊集院駅南側の一部地域にもみられます。

家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)とは、洪水で堤防が決壊することで、河川から流れ込む水の力により、家屋が流出・倒壊するおそれのある区域のことです。特に木造家屋は氾濫流による影響を受けやすく、流出・倒壊の危険性が高くなります。

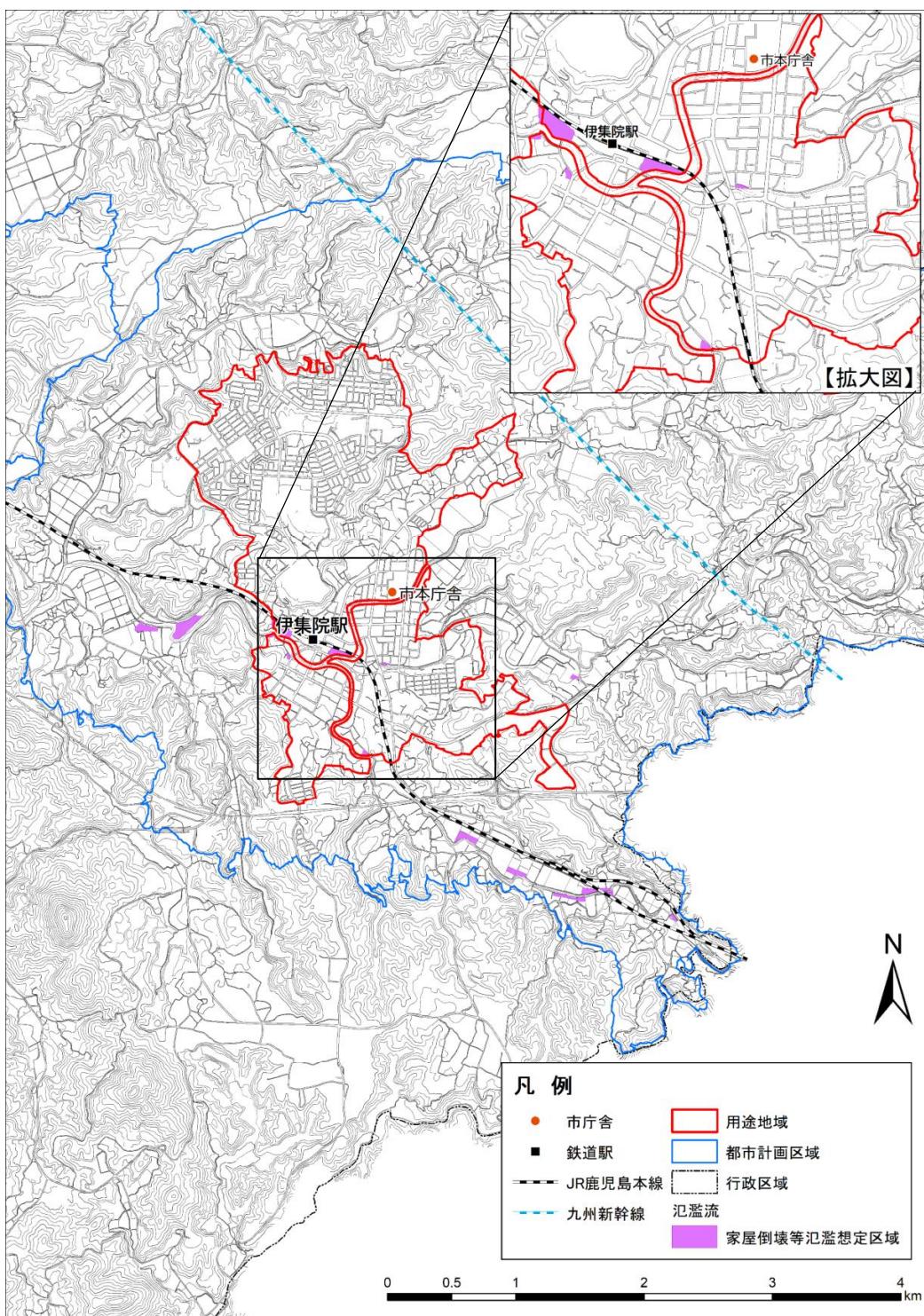


図 家屋倒壊等氾濫想定区域図(氾濫流)【伊集院地域拡大】

出典:鹿児島県(H29.3)

(7) 家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)

家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)は、河川沿いで広範囲にみられます。

家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)とは、河川の激しい流れにより、河岸が削られ土地が流出し、家屋が倒壊・流出するおそれがある区域のことです。

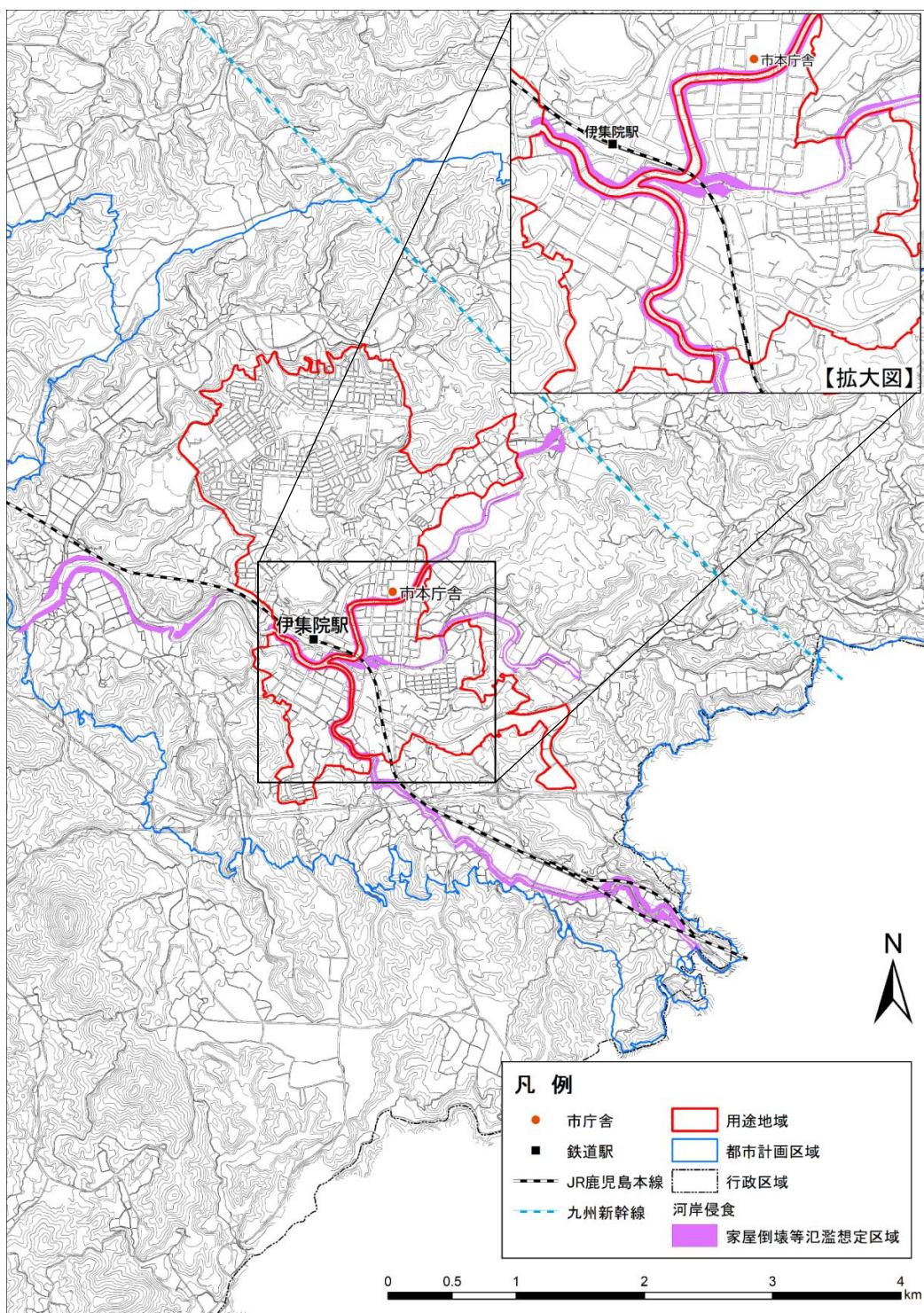


図 家屋倒壊等氾濫想定区域図(河岸侵食)【伊集院地域拡大】

出典:鹿児島県(H29.3)

(8) 津波浸水想定区域

津波浸水想定区域は、海沿いに概ね2.0m以上と想定されており、東市来町の一部では5.0m以上10.0m未満の浸水が想定されているエリアもみられます。

津波浸水想定とは、最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域と水深を表したもので、最大クラスの津波は、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波のことで、防災対策を構築する上で想定される津波となります。

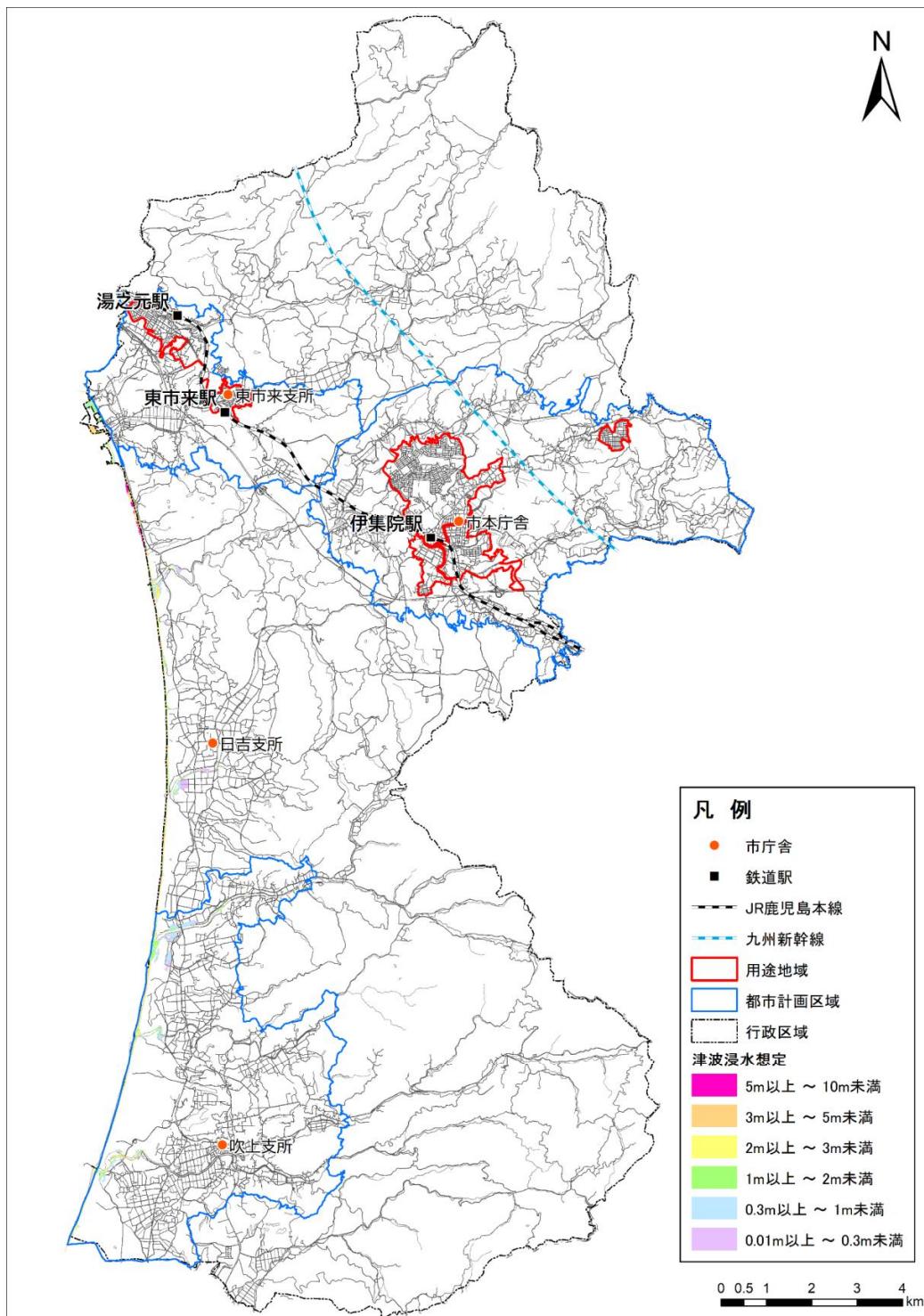


図 津波浸水想定区域図

出典:鹿児島県(H26.9)

2 - 2 市民の意向

2 - 2 - 1 市民アンケート調査の概要

(1) 調査の目標

本計画の策定に際し、市民の意向を把握することを目的として市民アンケート調査を実施し、主に『定住意向』『市の魅力や将来像』『まちづくり』『公共交通』に関する意向等を把握しました。

(2) 調査の対象

調査対象：18歳以上の市民 2,000人

調査期間：令和6(2024)年1月18日～31日

(3) 回収結果

配布数	回収数	回収率
2,000	903	45.2%

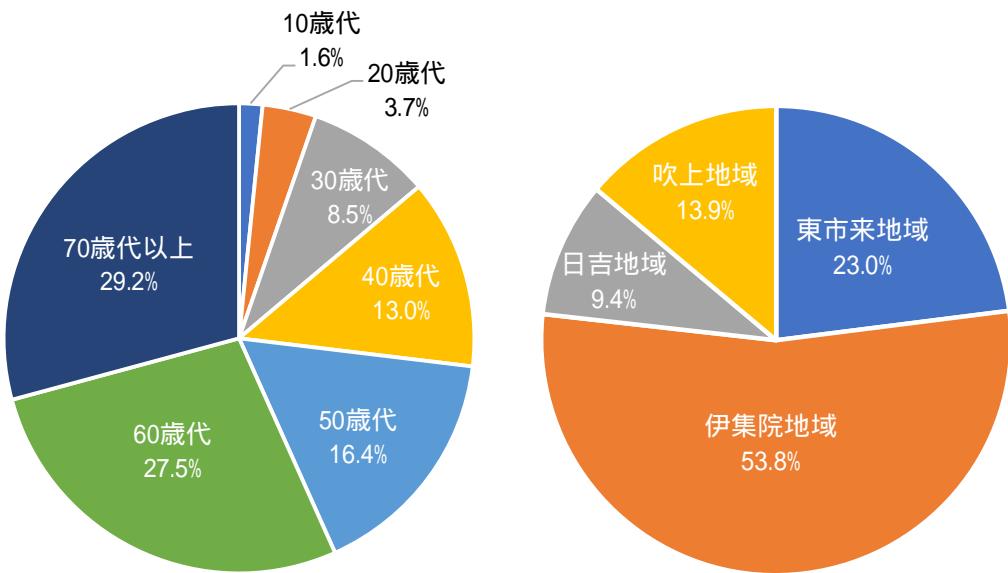


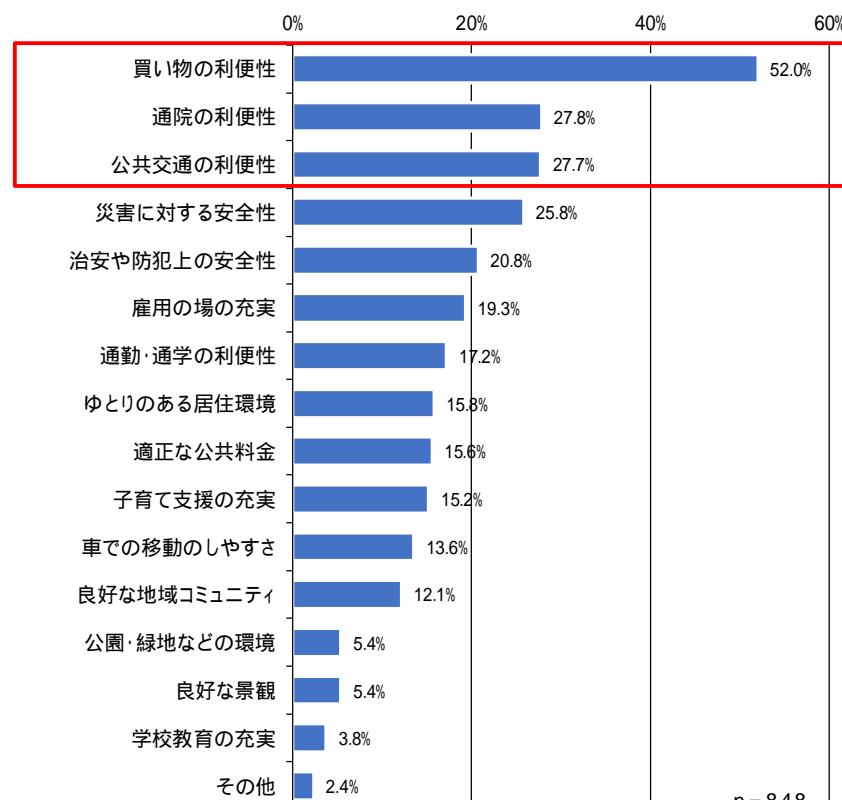
図 回答者の年齢構成(左)、居住地域(右)

複数回答の質問では、回答者数が基数のため集計結果の合計が100%を超える場合があります。

2-2-2 アンケート調査結果の概要

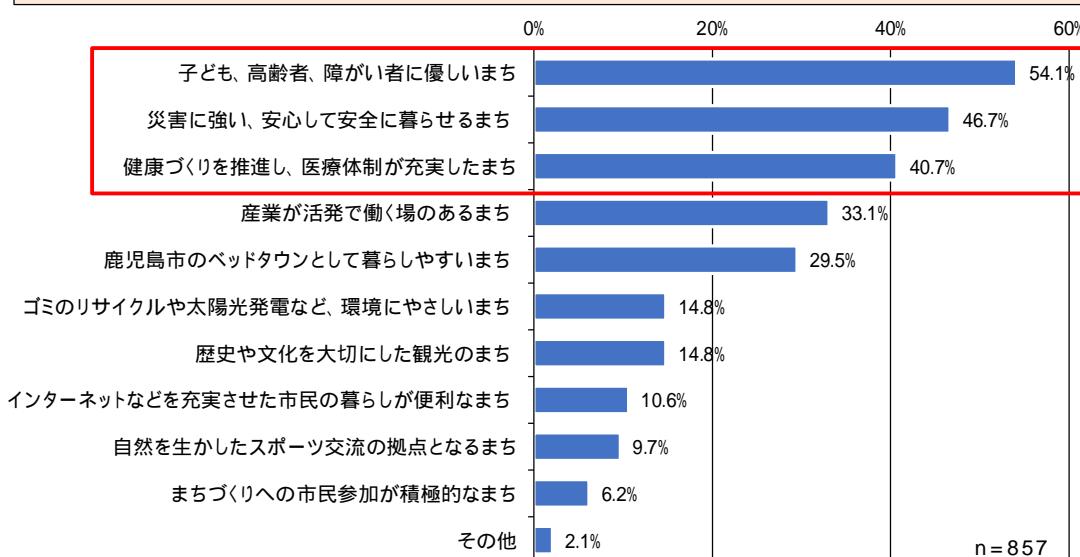
定住化(今後も日置市内に住み続けること)について、どのような取組を重点的に進めていくことが望ましいと思われますか。(複数回答)

定住化のために必要な取組は、「**買い物の利便性**」が52.0%と最も多く、ついで「**通院の利便性**」27.8%、「**公共交通の利便性**」27.7%となっています。



将来、日置市はどのようなまちをめざしていくことが望ましいと思われますか。(複数回答)

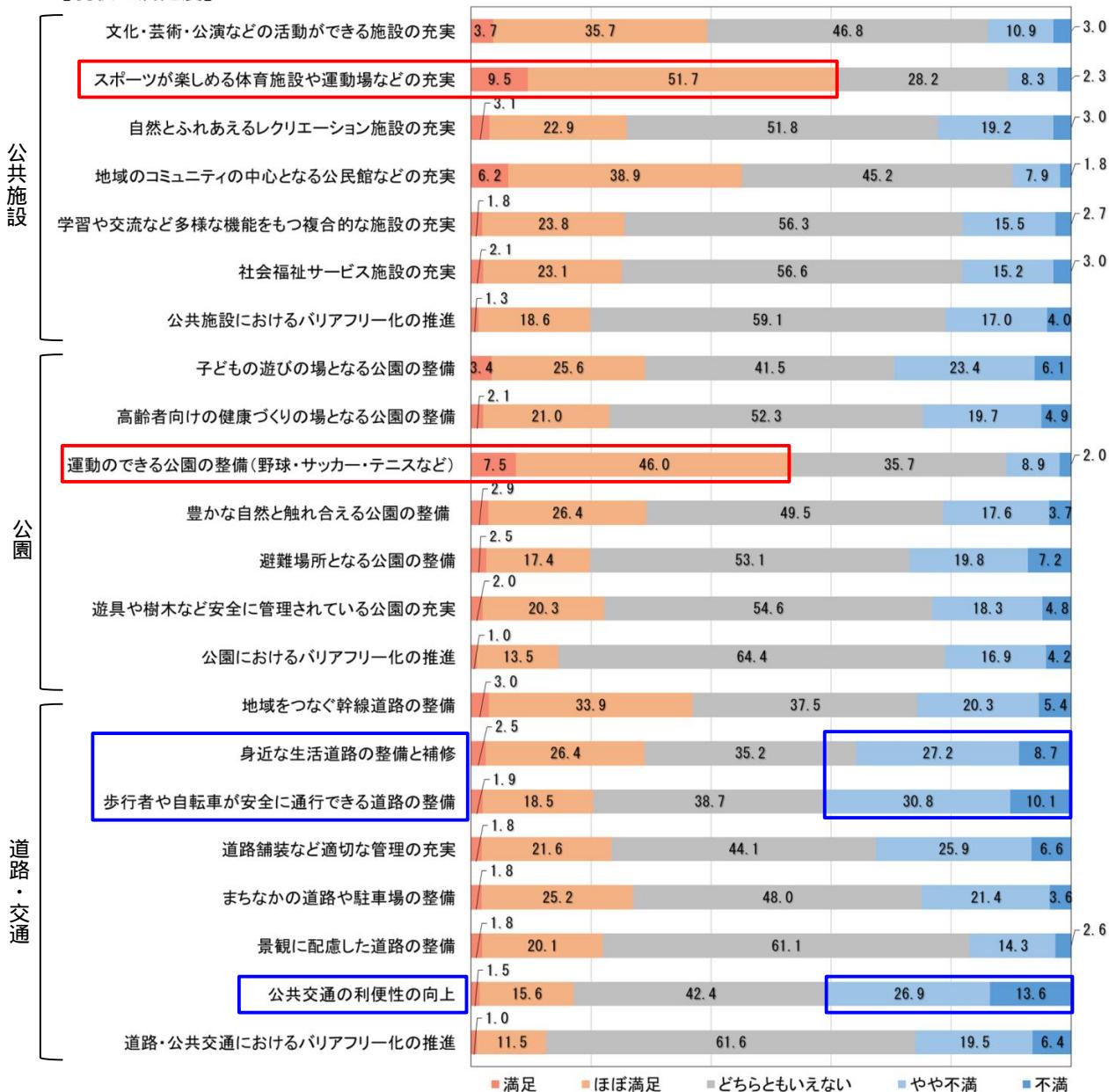
市が目指す方向としては、「**子ども、高齢者、障がい者に優しいまち**」が54.1%と最も多く、ついで「**災害に強い、安心して安全に暮らせるまち**」46.7%、「**健康づくりを推進し、医療体制が充実したまち**」40.7%となっています。



日置市の現状とこれからのまちづくりについてどのようにお考えですか。[現状の満足度と今後の重要度]

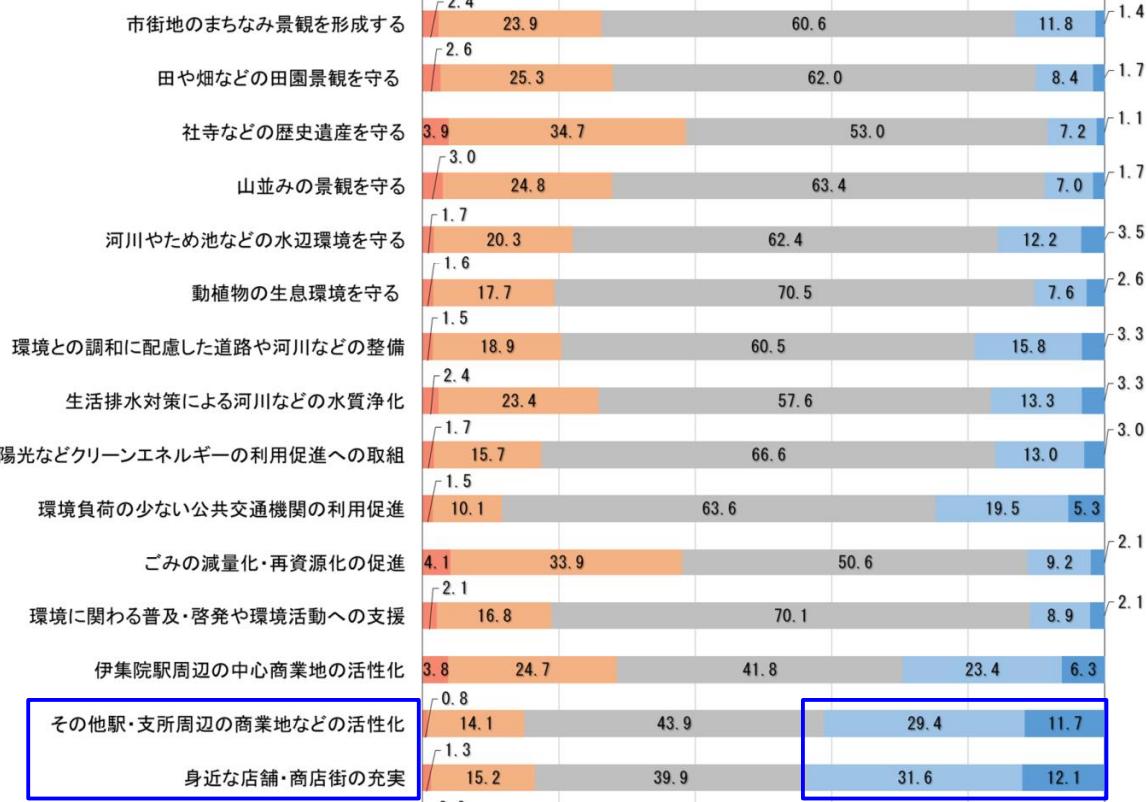
- ◆現状の満足度が高い項目は、「スポーツが楽しめる体育施設や運動場などの充実」等の**公共施設分野**、「運動のできる公園の整備（野球・サッカー・テニスなど）」等の**公園分野**となっています。
- ◆現状の不満度が高い項目は、「身近な生活道路の整備と補修」「歩行者や自転車が安全に通行できる道路の整備」「公共交通の利便性の向上」等の**道路・交通分野**、「その他駅・支所周辺の商業地などの活性化」「身近な店舗・商店街の充実」等の**市街地分野**、「空き家や未利用地の解消」の**住宅分野**となっています。これらの項目は次頁の重要度についても、高い傾向がみられます。

【現状の満足度】



【現状の満足度】

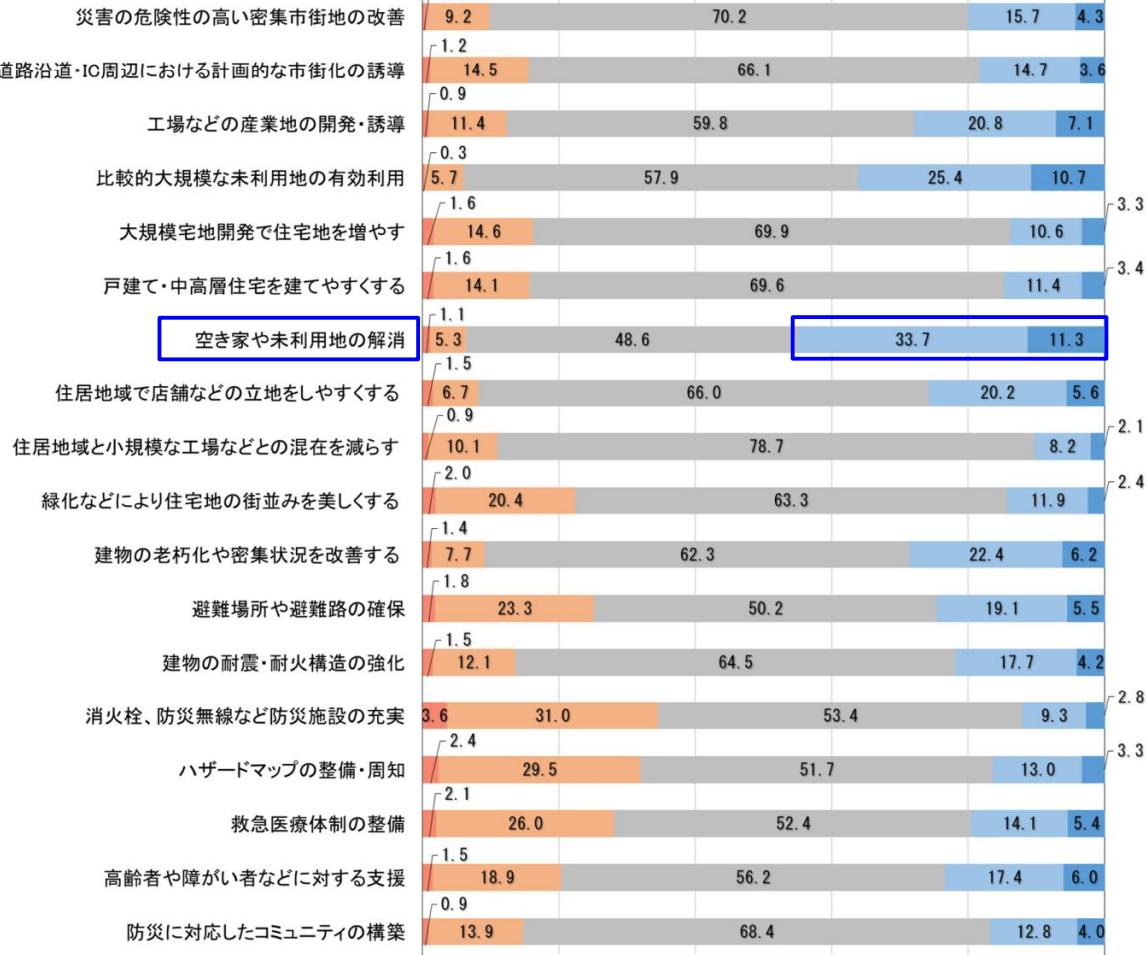
自然・景観



市街地

住宅

防災

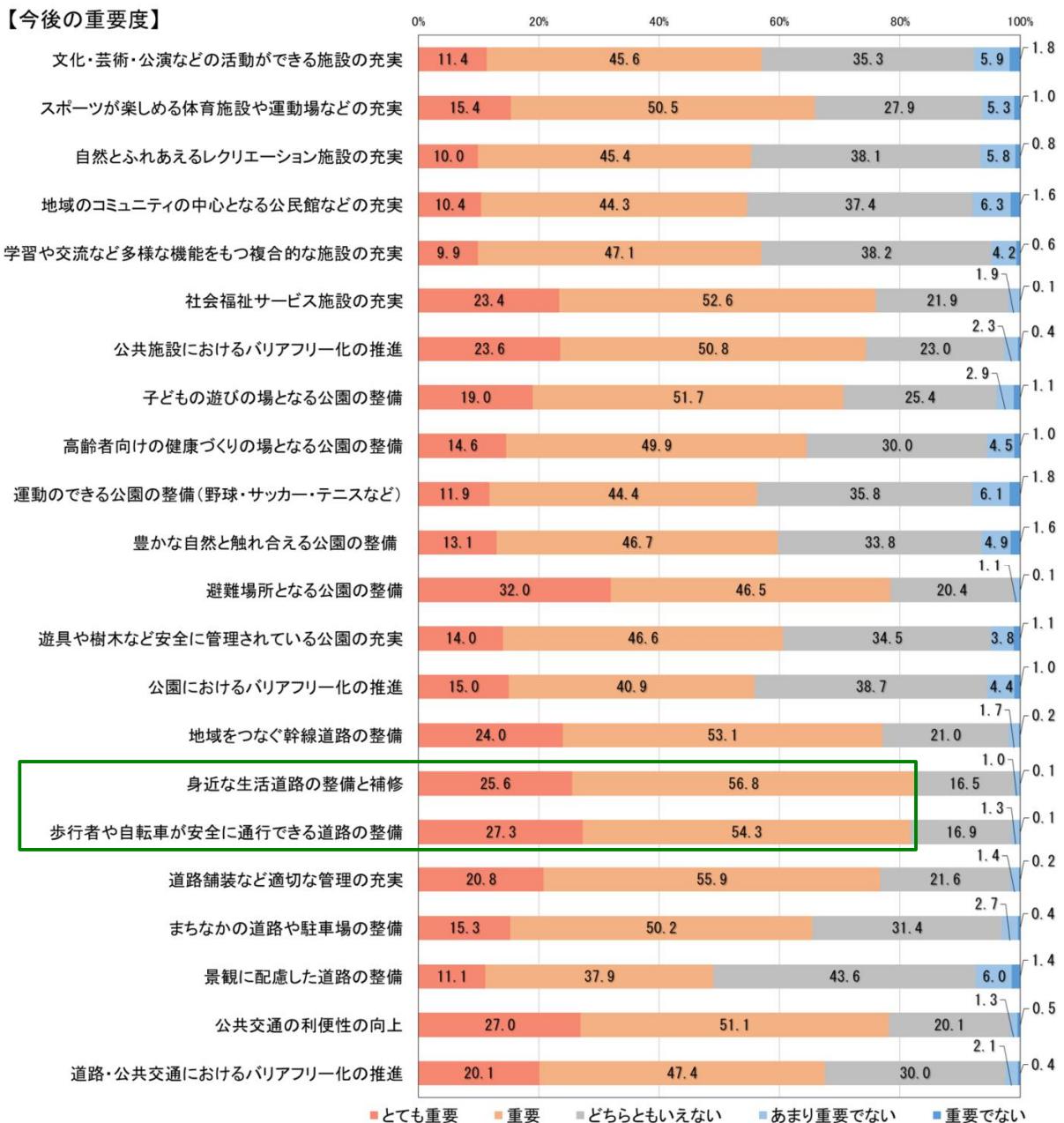


■満足 ■ほぼ満足 ■どちらともいえない ■やや不満 ■不満

◆今後的重要度は全般的に高くなっていますが、特に高い項目（重要度 80%以上）は、「**身近な生活道路の整備と補修**」「**歩行者や自転車が安全に通行できる道路の整備**」等の**道路・交通分野**、「**避難場所や避難所の確保**」「**救急医療体制の整備**」「**高齢者や障がい者等に対する支援**」等の**防災分野**となっています。

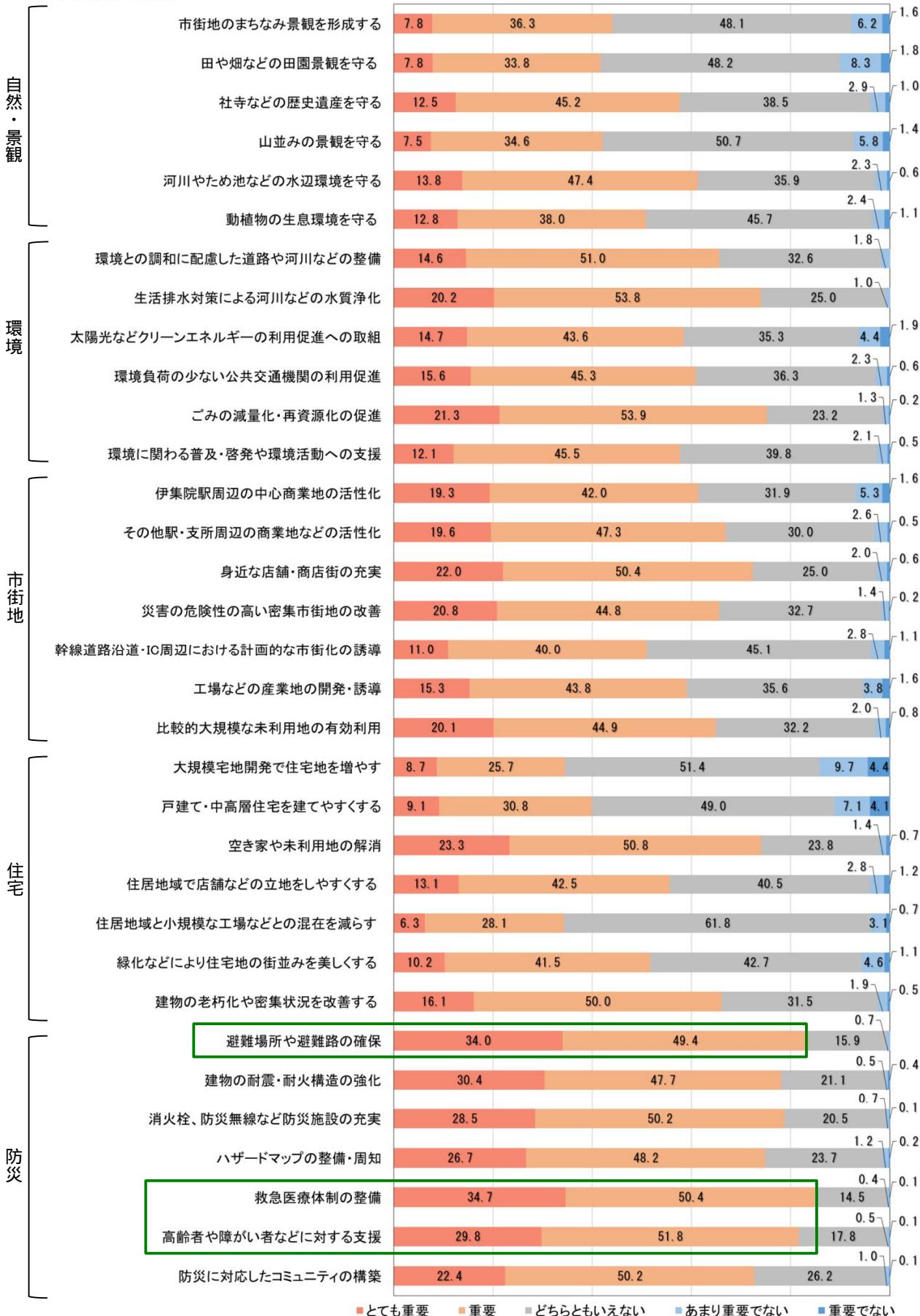
【今後の重要度】

公共施設



■とても重要 ■重要 ■どちらともいえない ■あまり重要でない ■重要でない

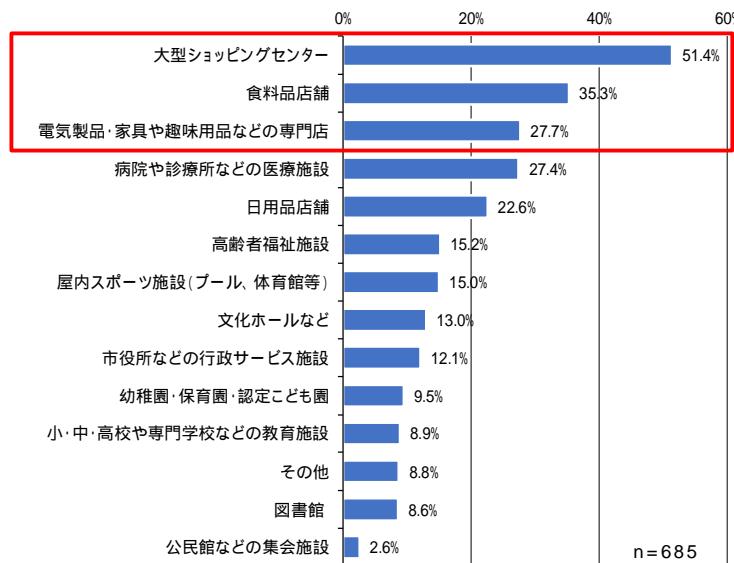
【今後の重要度】



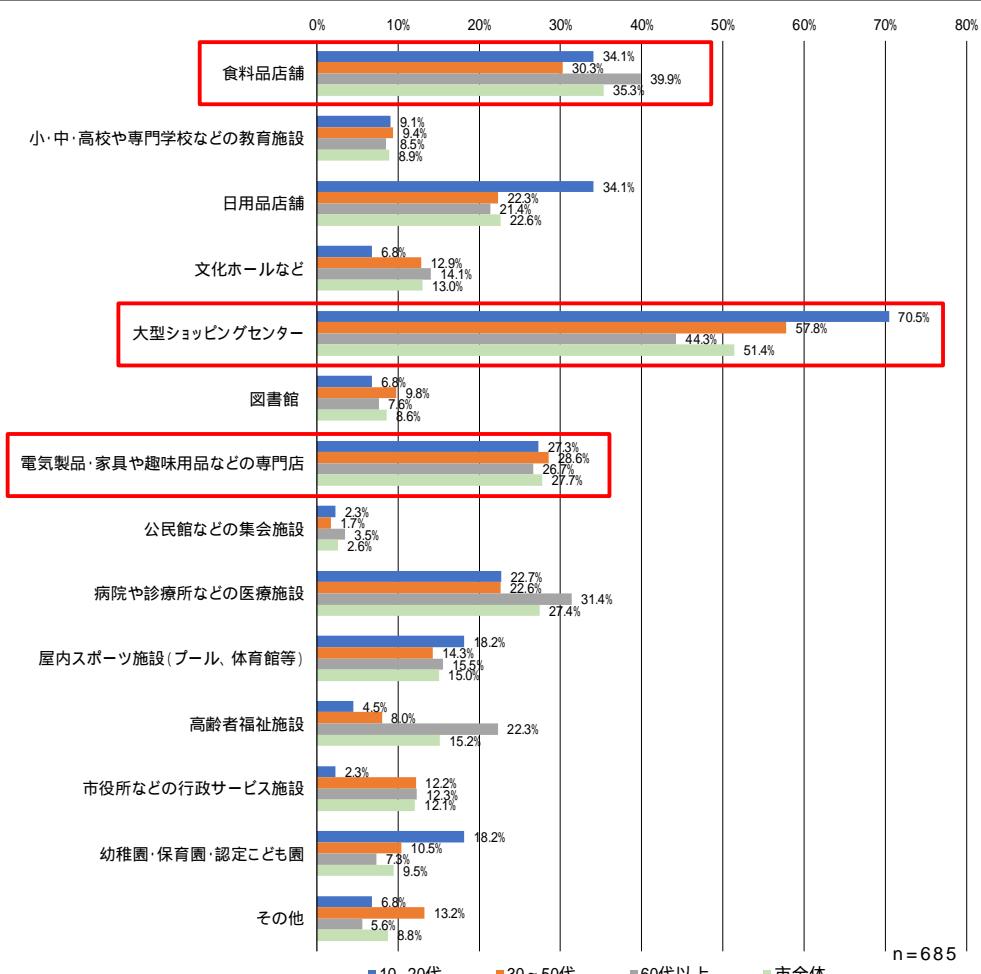
鉄道各駅周辺において、今後、どのような施設が充実すればいいと思いますか。(複数回答)

伊集院駅周辺

伊集院駅周辺に望まれる施設は、「**大型ショッピングセンター**」が 51.4%と最も多く、ついで「**食料品店舗**」35.3%、「**電気製品・家具や趣味用品などの専門店**」27.7%となっています。



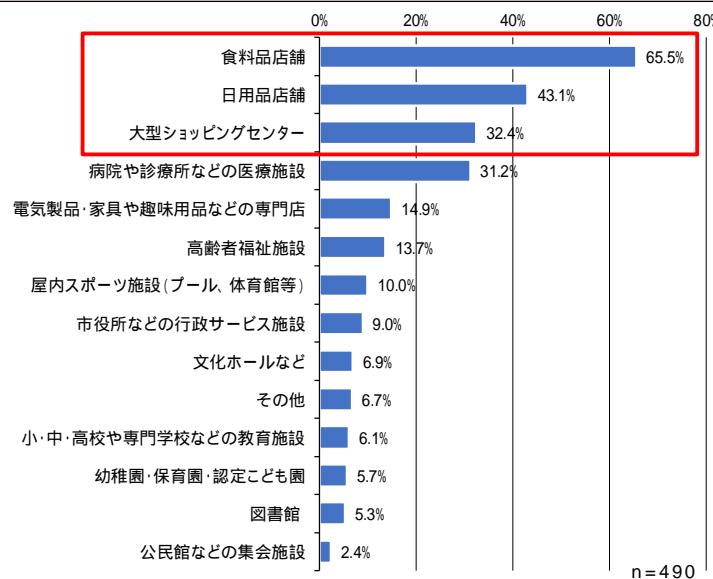
年齢区分でみると、「**大型ショッピングセンター**」は全ての世代で希望する声が多く、特に 10、20 代からの回答が突出しています。「**食料品店舗**」「**電気製品・家具や趣味用品などの専門店**」は全世代から満遍なく望まれています。



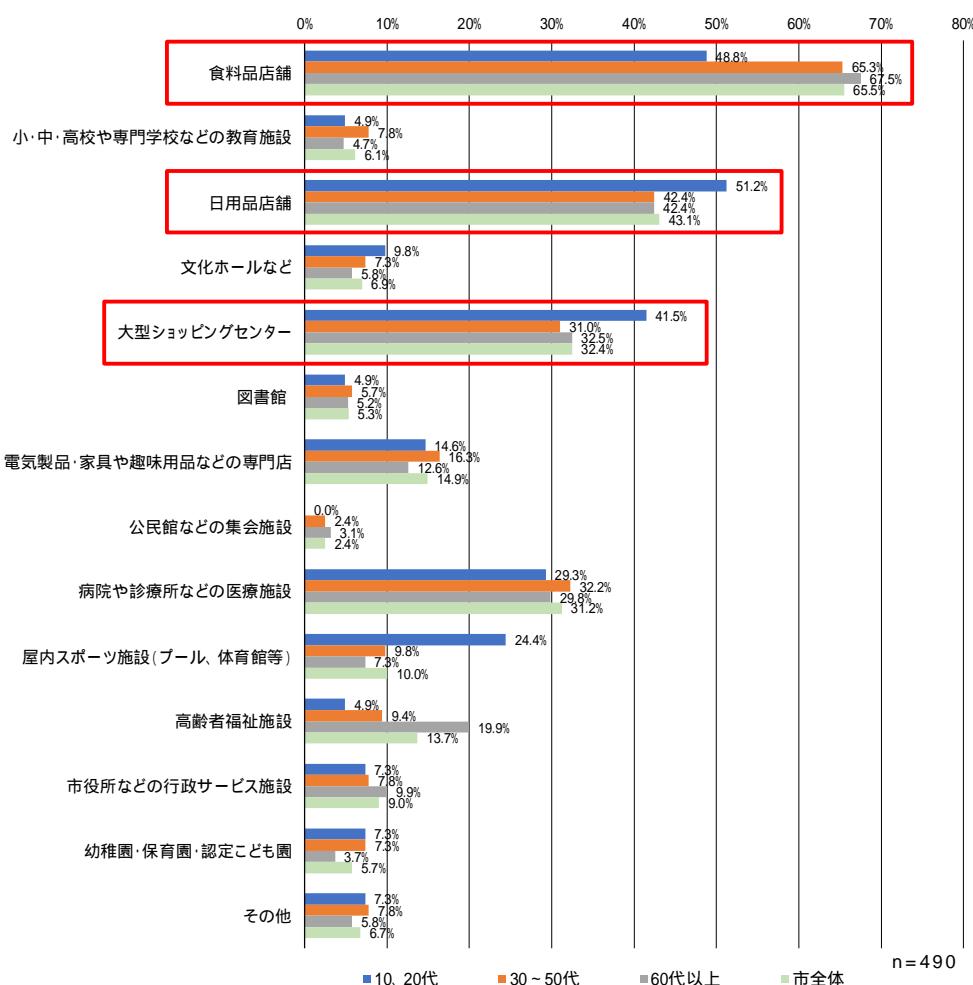
鉄道各駅周辺において、今後、どのような施設が充実すればいいと思いますか。(複数回答)

東市来駅周辺

東市来駅周辺に望まれる施設は、「食料品店舗」が 65.5%と最も多い、ついで「日用品店舗」43.1%、「大型ショッピングセンター」32.4%となっています。



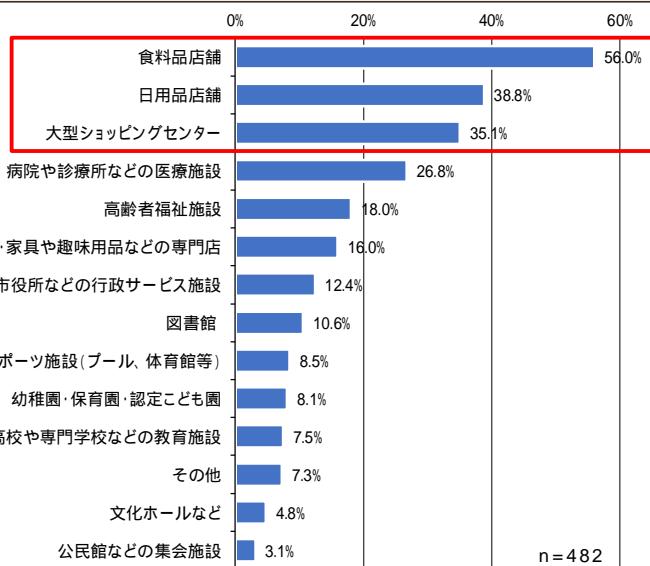
年齢区分でみると、「食料品店舗」は全ての世代から希望されており、特に 30 代以上の回答が多くなっています。10、20 代は「日用品店舗」「大型ショッピングセンター」を望む声が多くなっています。



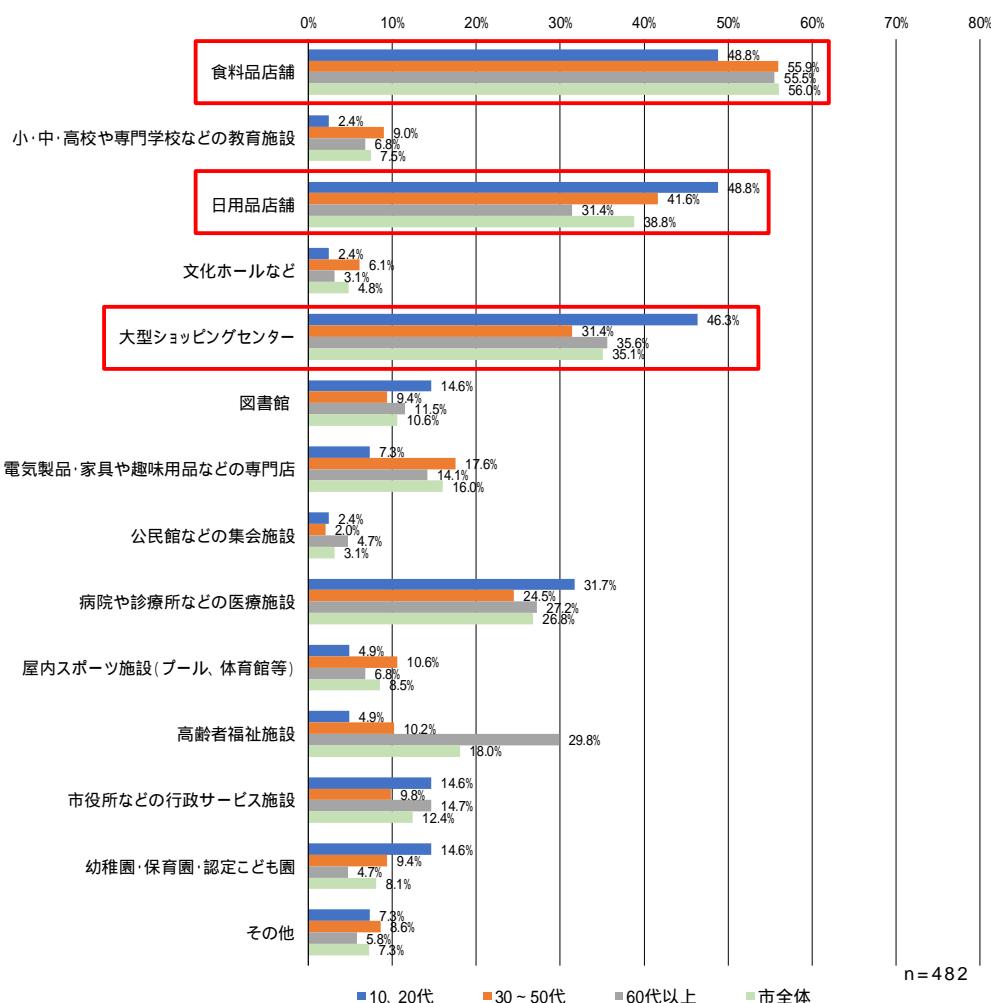
鉄道各駅周辺において、今後、どのような施設が充実すればいいと思いますか。(複数回答)

湯之元駅周辺

湯之元駅周辺に望まれる施設は、「食料品店舗」が 56.0%と最も多く、ついで「日用品店舗」38.8%、「大型ショッピングセンター」35.1%となっています。



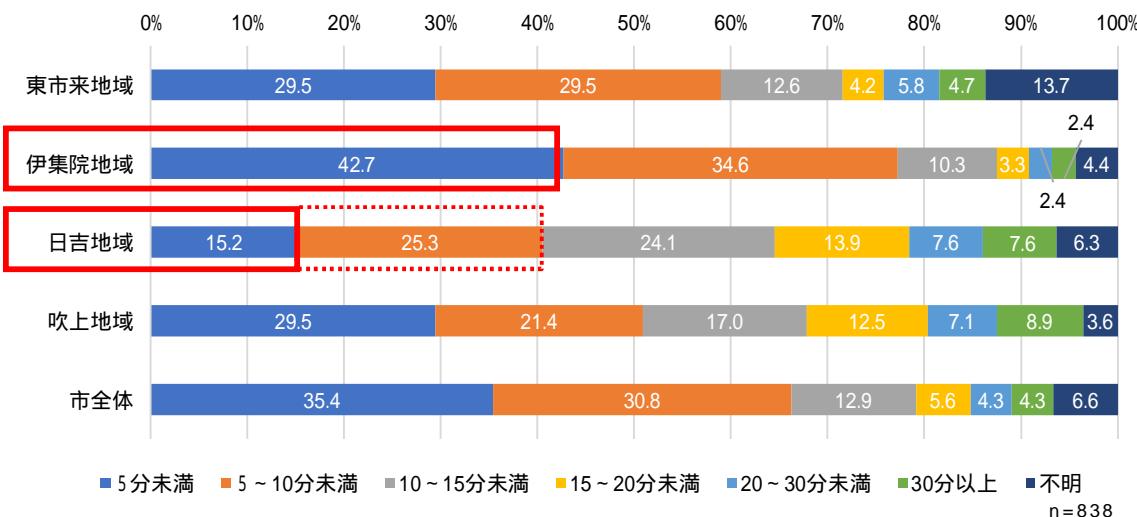
年齢区分でみると、「食料品店舗」は全世代から満遍なく望まれています。10、20代は「日用品店舗」「大型ショッピングセンター」を望む声が多くなっています。



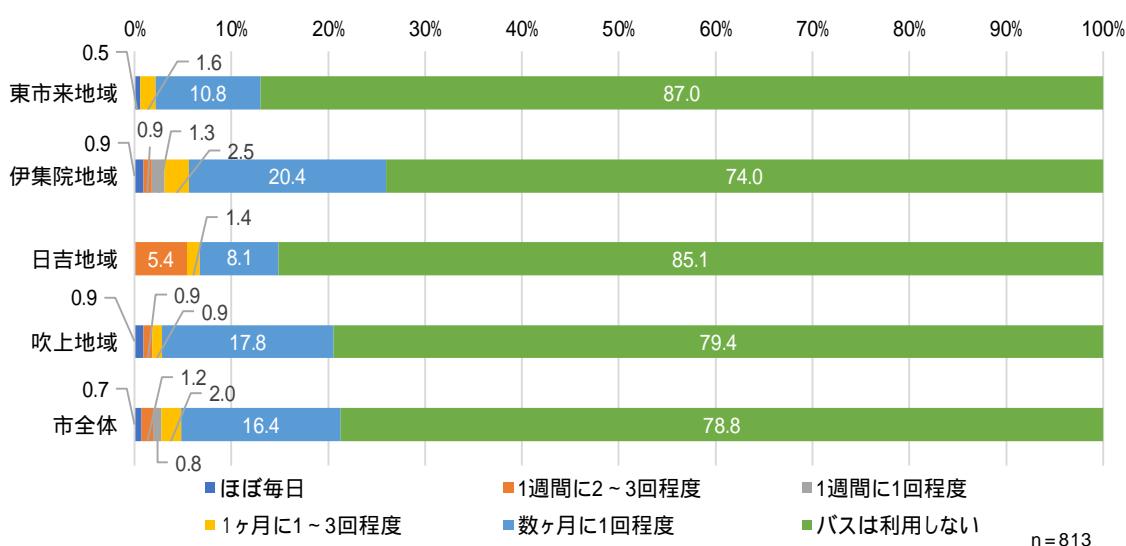
日常の公共交通の利用状況について

- ◆ 自宅からバス停まで徒歩 5 分未満と回答した割合が最も高いのは伊集院地域 42.7%、最も低いのは日吉地域の 15.2%です。日吉地域は、自宅からバス停まで徒歩 10 分未満と回答した割合が 40.5%と、自宅近辺にバス停が少ないことが分かりました。
- ◆ 一方で、バス停までの所要時間にかかわらず、全ての地域において、バスを利用しないとの回答が 8 割程度となり、市全体でバスの利用度が低いことが分かる結果となりました。

自宅から最寄りのバス停まで、徒歩でどれくらいかかりますか。

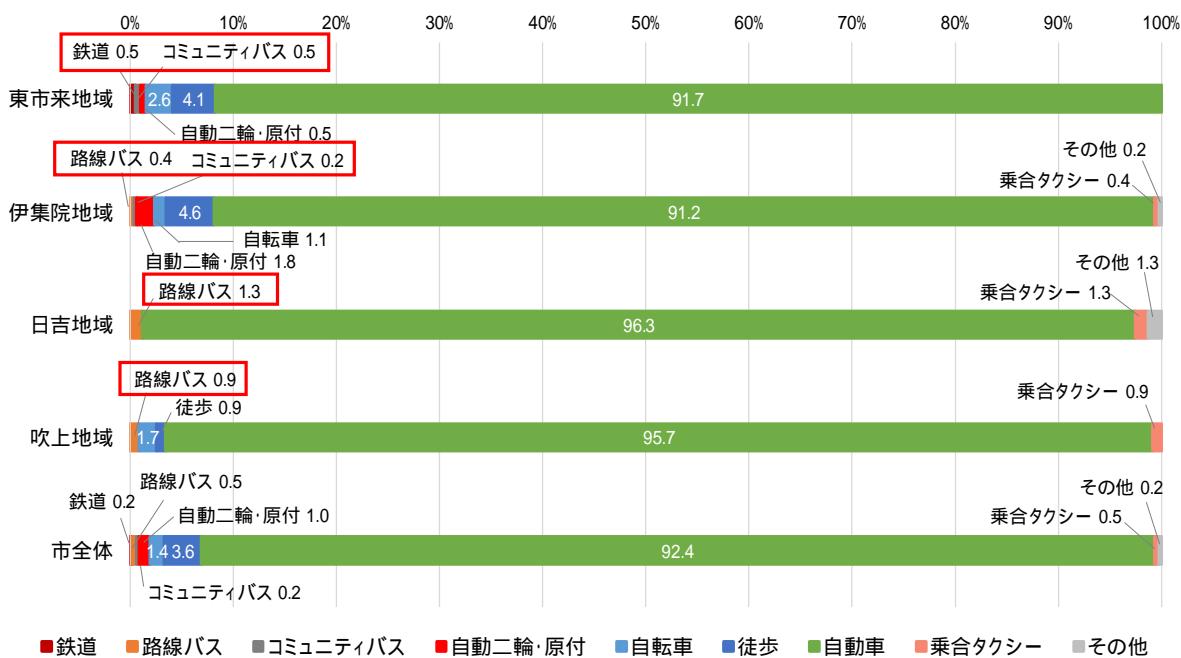


普段、バスをどれくらい利用しますか。



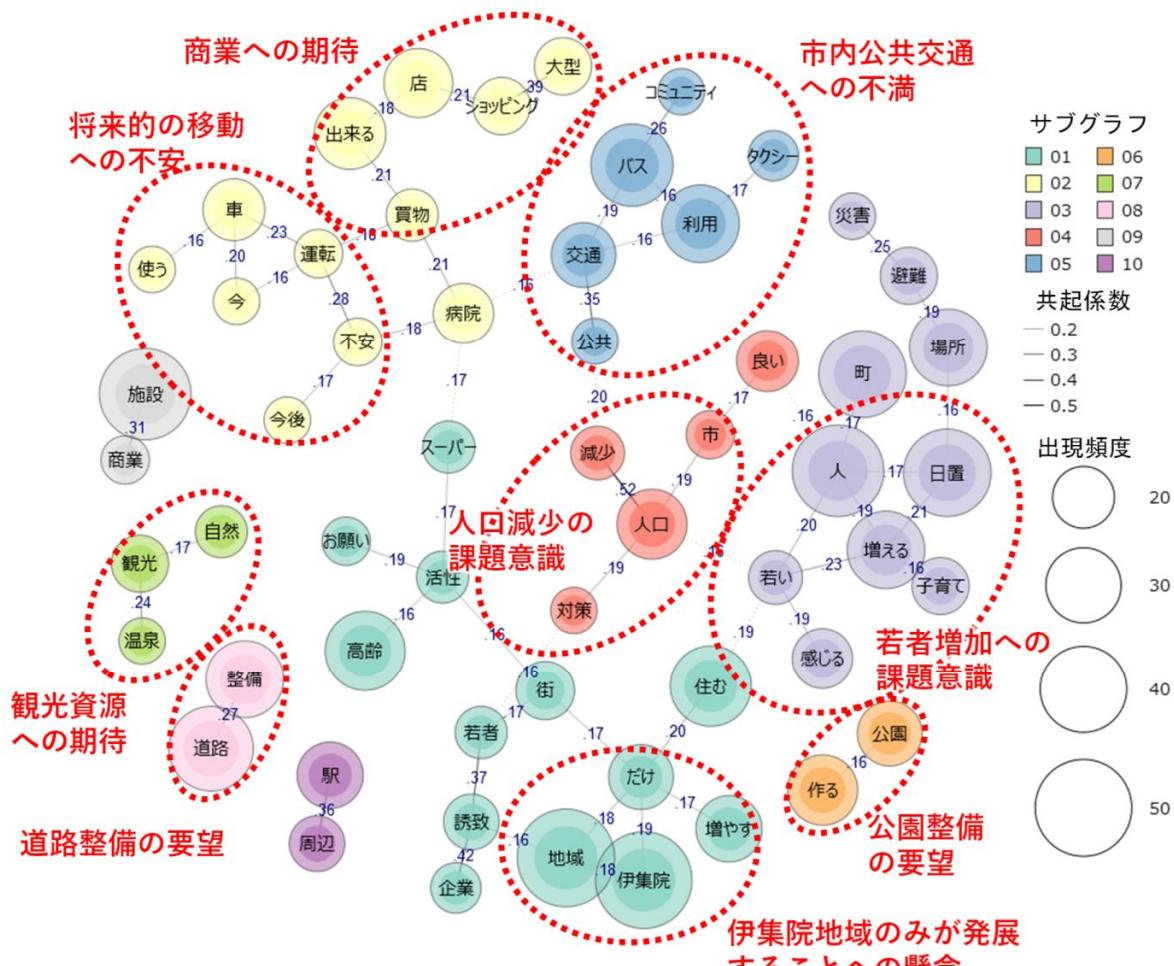
日用品の買い物において、主に利用する交通手段は何ですか。

- ◆ 買い物に利用する交通手段は、全ての地域において**自動車**が9割以上の回答となりました。
- ◆ **公共交通**（鉄道、路線バス、コミュニティバス等）は、いずれも回答が少なく、**利用度が低い**ことが分かる結果となりました。
- ◆ 東市来及び伊集院地域では「徒歩」の回答がみられますが、日吉及び吹上地域ではほぼないことから、**日吉地域・吹上地域**においては**徒歩圏内に日用品店舗が少ない**ことが分かりました。



自由記述のテキストマイニング結果

伊集院地域のみが発展することを懸念する意見がみられたほか、若者世代の増加への課題意識、現状の公共交通への不満や将来の移動への不安に関する意見がみられました。



テキストマイニングとは...

単語や文節などの出現頻度や相関、出現傾向等を解析する分析手法

抽出語	出現回数
地域	51
伊集院	50
施設	45
人	45
町	41
日置	41
道路	38
バス	36
住む	35
高齢	34
少ない	34
多い	33
場所	32
整備	32
増える	32

図 自由記述の共起ネットワーク図
(10回以上出現した単語、上位60種類の単語間の関係性)

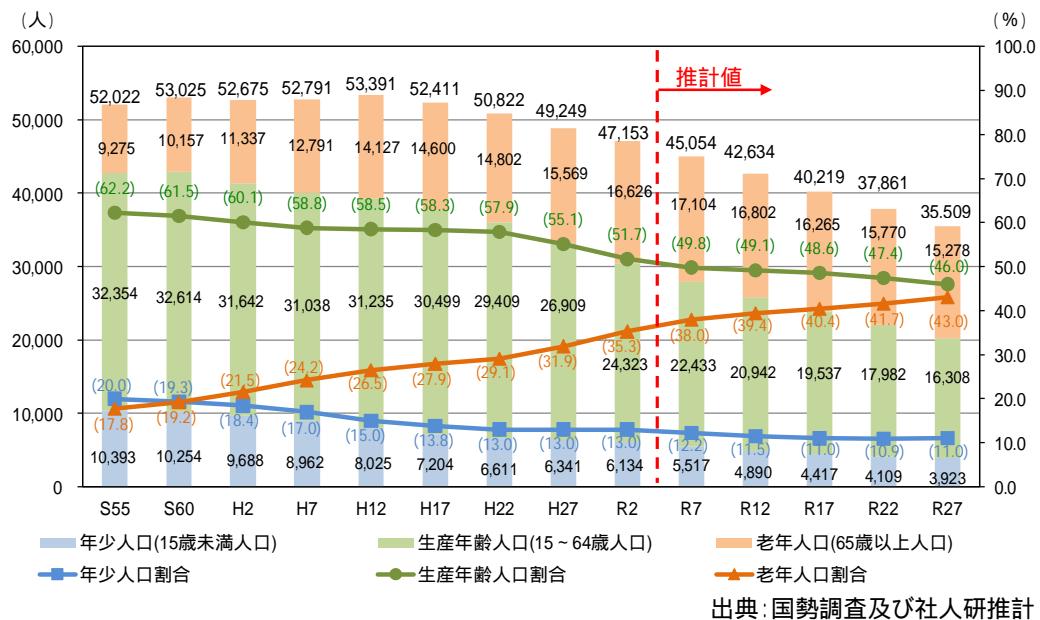
2 - 3 本市の抱える課題

本市の現状や市民アンケート結果等を踏まえ、本計画において解決すべき課題について整理します。

課題 【居住】市民の住環境の維持・確保

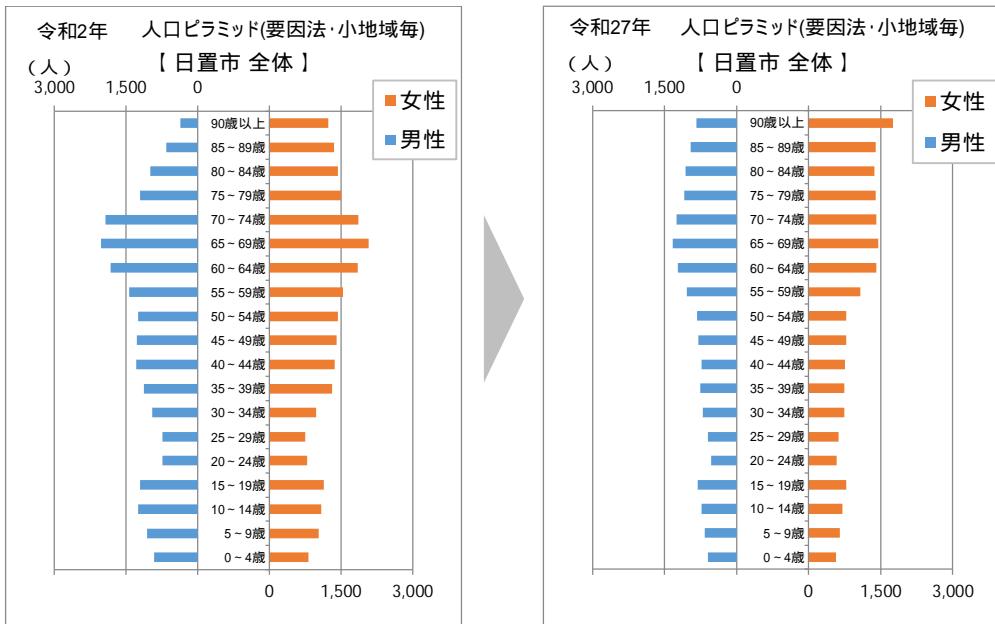
- ◆ 本市の人口は減少し続けており、今後もさらなる人口減少が見込まれています。
- ◆ 人口の減少は、多くの人が利用することで経営が成り立っている生活サービス施設（スーパー、病院等）の撤退や公共交通サービスの低下につながります。
- ◆ 生活サービス施設や公共交通サービスを確保するためにも、伊集院、東市来地域を中心に一定の人口密度を確保し、将来にわたって持続可能な都市構造へ転換することが必要です。

総人口及び年齢3区分人口の推移



出典:国勢調査及び社人研推計

将来推計人口ピラミッド (5歳区分)

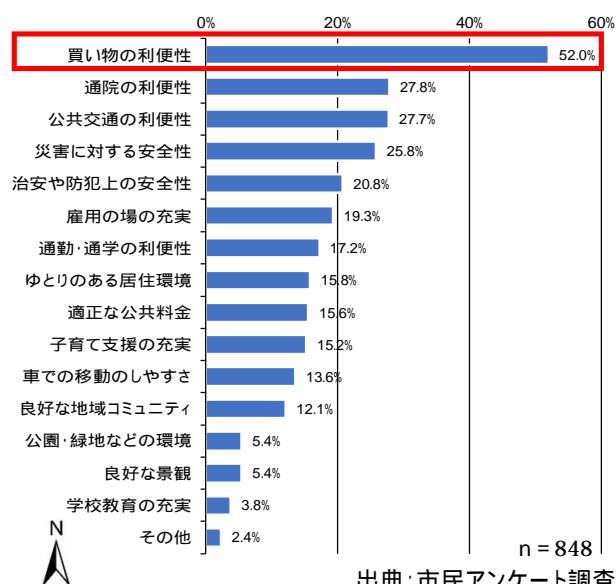


出典:社人研推計

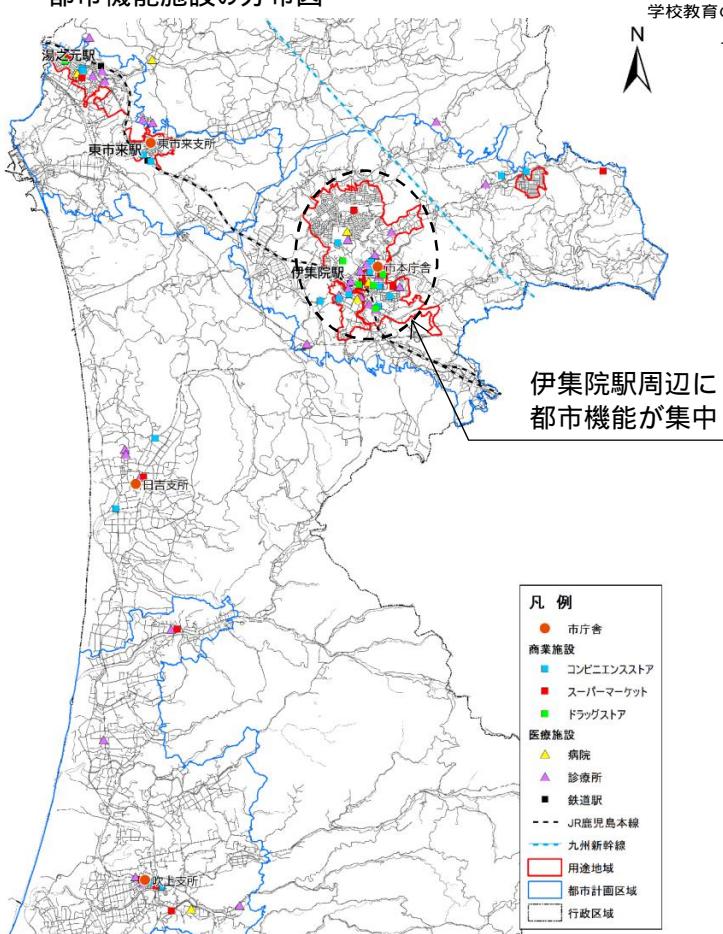
課題 【都市機能】まちなかにおける都市機能の維持・充実

- ◆ 市民アンケートにおいて、若者や子育て世代が楽しめる施設が少ないとや、生活サービス施設の不足を指摘する声がみられたとともに、本市に定住するために必要な取組として「買い物の利便性」をあげた人が回答者の半数以上を占めていることからも、生活サービス施設を中心とした都市機能の維持・充実は重要な課題といえます。
- ◆ 同アンケートにて伊集院地域のみが発展することを懸念する声が多くみられ、地域を問わず都市機能の充実が求められていることが分かります。
- ◆ 住みやすいまちを実現するためにも、まちなかにおける都市機能の維持・充実や、歩いて暮らせるまちづくりの実現が求められます。

定住化のために必要な取組は？



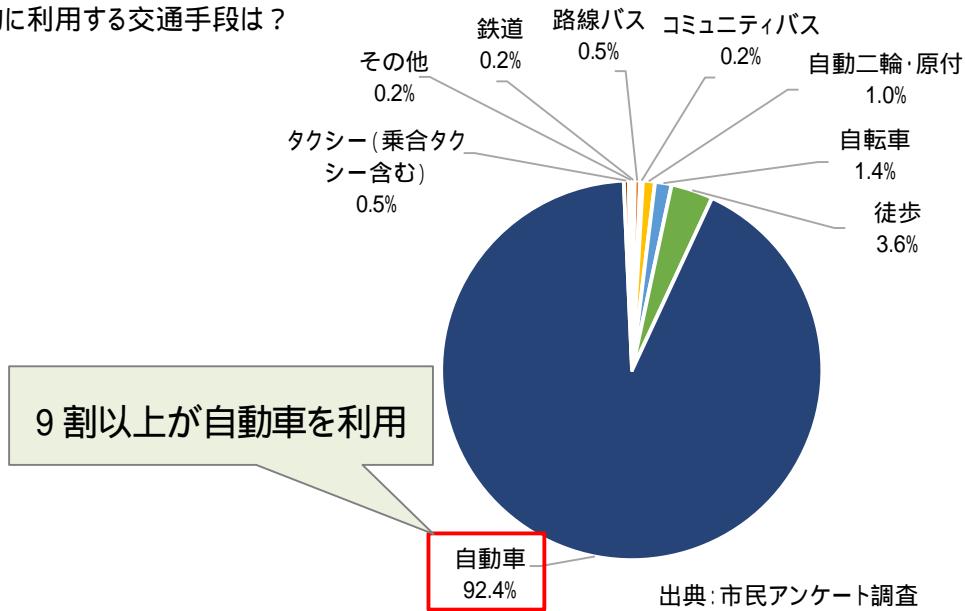
都市機能施設の分布図



課題 【公共交通】公共交通サービスの維持・向上

- ◆ 市民アンケートにおいて、日常的な交通手段として自動車を利用する市民は9割を超え、公共交通サービス（鉄道、バス等）の利用度は低いことが分かりました。
- ◆ 利用者のニーズや今後の高齢者の免許返納を踏まえ、公共交通サービスの維持・向上により、過度に自動車に依存することなく生活ができるまちづくりへの取組が必要です。

普段の買い物に利用する交通手段は？

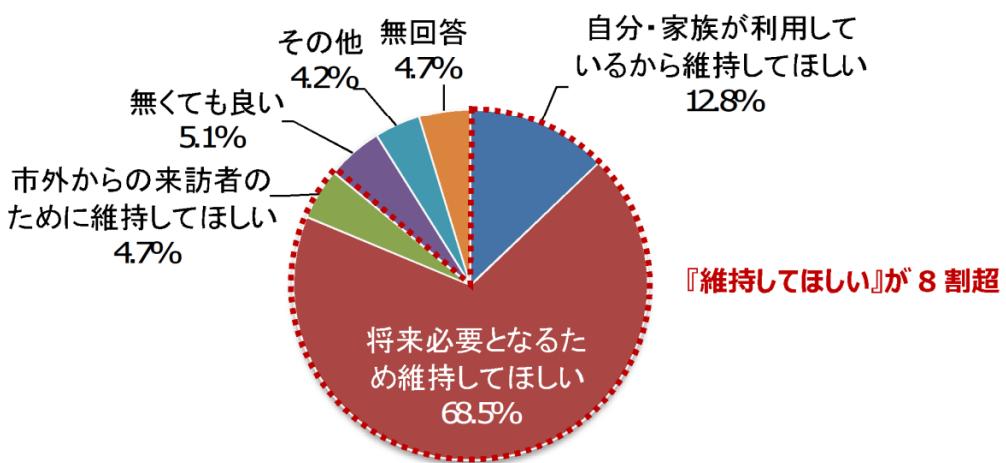


出典: 市民アンケート調査

公共交通の今後の運行に対する考え方

【令和3年度実施アンケート：市民の日常の移動実態及び公共交通に対するニーズの把握】

【公共交通の今後の運行について N=1,184】

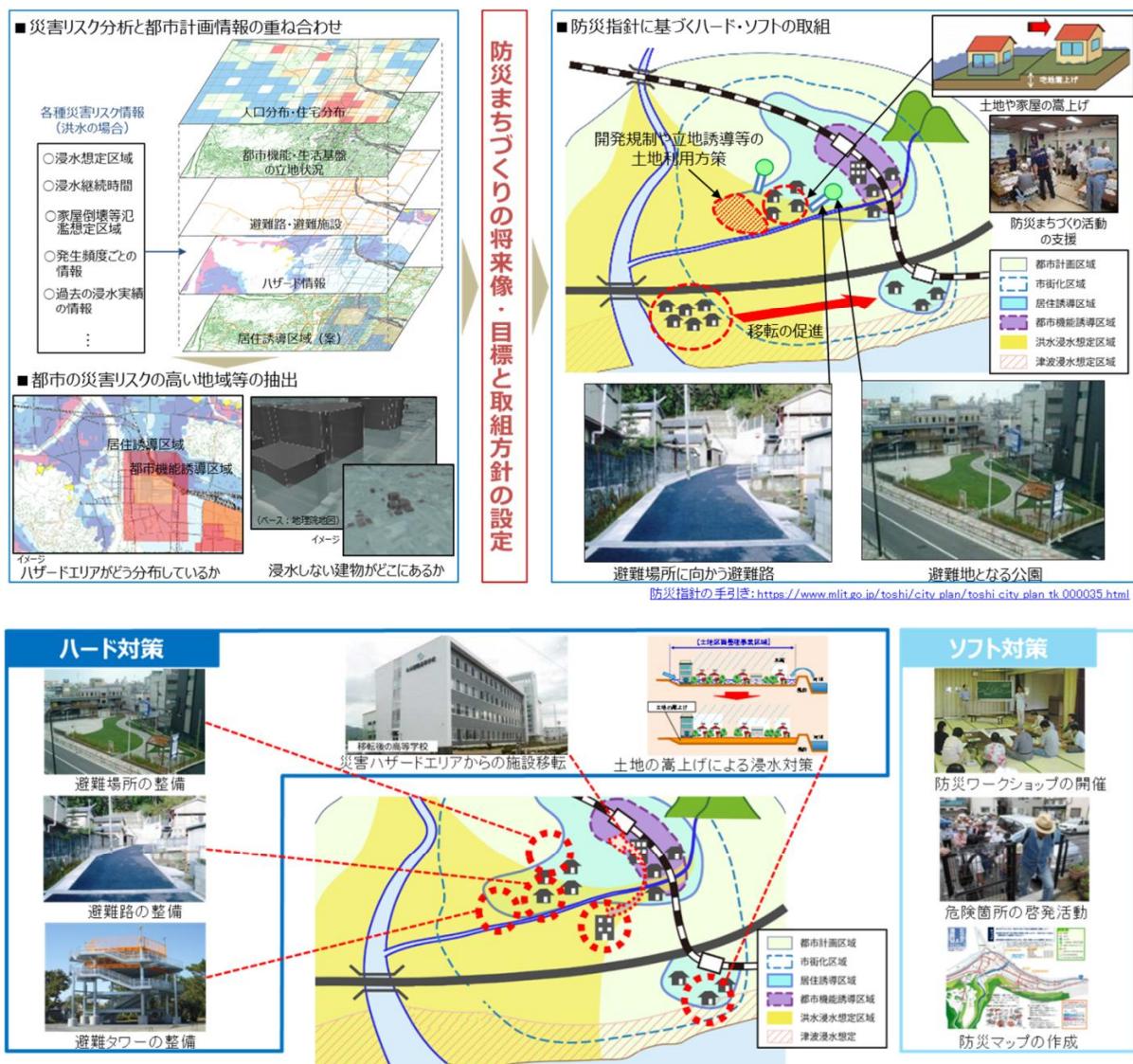


出典: 日置市地域公共交通計画(R4.3)

課題 【防災】災害リスクの低減・回避

- ◆ 本市は、山間部を中心に市全域において、土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域等が指定されており、土砂災害リスクが存在します。
- ◆ また、伊集院市街地と湯之元駅周辺において、浸水想定区域が指定されており、広範囲に浸水リスクが存在します。
- ◆ 災害ハザードエリアに居住する人口も多いことから、自然災害に対して安全・安心な生活を守るためにハード・ソフト両面での防災対策を図るなど、災害リスクの低減に努めることが必要です。

[参考]立地適正化計画における防災指針の概要・安全確保の取組への支援



出典：立地適正化計画制度(R6.3・国土交通省)